

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 9
沼 田 東 小 学 校	5 3
沼 田 北 小 学 校	5 7
升 形 小 学 校	6 1
利 南 東 小 学 校	6 5
池 田 小 学 校	6 9
薄 根 小 学 校	7 3
川 田 小 学 校	7 7
白 沢 小 学 校	8 1
利 根 小 学 校	8 5
多 那 小 学 校	8 9
沼 田 中 学 校	9 3
沼 田 南 中 学 校	9 7
沼 田 西 中 学 校	1 0 1
沼 田 東 中 学 校	1 0 5
池 田 中 学 校	1 0 9
薄 根 中 学 校	1 1 3
白 沢 中 学 校	1 1 7
利 根 中 学 校	1 2 1
多 那 中 学 校	1 2 5
利 南 幼 稚 園	1 2 9
薄 根 幼 稚 園	1 3 3

沼田小学校

所在地 〒378-0042 沼田市西倉内町746番地
電話番号 0278-22-2063 FAX 22-0780
校長名 荒木富美子

I 学校の経営

- 1 学校の教育目標 ○『よく学ぶ子』 ○『助け合う子』 ○『元気な子』
「知」基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用して問題を解決する能力を育成する。
「徳」自己肯定感や他者への思いを深めさせ、道徳的実践力を育成する。
「体」健康・安全の知識・技能を習得させ、自ら実生活に活かす能力・態度を育成する。

2 経営方針

- ◎教育課題を明確にし、解決に向けて全職員で組織的に取り組む（チーム沼小）
◎感染症対策を徹底し、教育活動の幅を広げていく
・基本的な感染症対策を徹底するために、養護教諭を中心に子どもが主体的に取り組めるように工夫し、感染対策のベースを上げる。
・活動のリスクを考え、様々な場面で対策を取ることで教育活動の幅を広げていく。

3 本年度の重点施策

(1) チーム沼小の強化

- ① 毎週月曜の企画会議（校長・教頭・教務）で情報収集、調整を行い、全職員で共通理解のもと進められるベースを作る。
② 各主任の主体性を大切にし、思いを生かして組織的に取り組めるよう、合意形成を大切にする。
③ 特別支援COを中心に全教職員が組織的に特別支援教育を推進できるようにする。
④ 業務削減、効率化を行い、心身共に健康な状況で温かな指導に当たれるようにする。

(2) 確かな学力の育成【沼田市・先生の日】

- ① 教育水準公開授業を目標に「はばプラⅡ」を活用した「沼小スタンダード」を推進する。
② 全ての児童の可能性を引き出す授業の実践（個別最適な学びと共同的な学び）に視点を当て、ICTの効果的な活動を検討していく。【振り返り学習】
③ 学習規律を徹底し、安心して表現し合える・誰もが出番のある学級づくりを行う。
④ 教科担当制を取り入れ、専門性を生かしてた指導の充実と多面的な生徒指導が行えるようにする。【教科担当制の推進】

(3) 豊かな心の育成【沼田大好き、ふるさと学習】

- ① 生活五原則「挨拶・返事・ありがとう、無言・自問清掃、時を考える」を励行した生活指導を徹底する。
② 道徳教育の充実と人権教育の実践、信頼関係を基盤にした生徒指導の推進によって「自己有用感」を育成する。
③ 信頼関係を基盤にした温かな生徒指導と分かる授業により「自己肯定感」を高める。
④ 総合的な学習の時間や生活科を中心に地域と連携・協力した「沼田大好きふるさと学習」を推進する。

(4) 健康な心身の育成【セイフティ沼田】

- ① 感染症予防等、自分の身を自分で守るための学校保健、食育、安全教育を推進する。
② 免疫力を高めるために、食事・睡眠・運動を適切に行えるよう、学校保健委員会を中心に啓発し、家庭とも連携して実践できるようにする。
③ 体力向上プランに基づき、体育の授業と業前・業間の運動を充実させる。

(5) 家庭・地域・隣接学校との連携・協力【幼小中連携】

- ① たよりやWebページにより、家庭や地域への情報発信を充実させる。
② 「学校支援センター」の機能を生かした学習ボランティアとの連携を推進する。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自ら学び、考え、表現できる児童の育成
副主題 ～ICTを活用した問題解決的な学習「沼小スタンダード」の実践を通して～

児童の実態との関わり

- ・粘り強く、自己調整しながら学習に取り組む点は、まだ十分ではない。
- ・自分の考えを表現する場面で、分かりやすく記述したり説明したりすることに課題がある。
- ・他者の様々な見方や考え方に触れて、よさを取り入れたり、比べて考えたりする姿はあるが、全体の場面で、よりよい解決方法を考え、さらに踏み込んだ発言ができる児童はまだ少なく、思考の深まりという点で課題がある。

指導の在り方との関わり

- ・自分の考えを分かりやすく表現して伝えられるような指導を充実させる必要がある。
- ・学級全体で考えを深める場面での指導の方法をさらに工夫していく必要がある。
- ・一人一人が考えを出し合い、「見方・考え方」を働かせながら課題を解決していく力を高める学習活動の充実が必要である。
- ・ICT(1人1台端末等)を活用した学習活動の工夫が求められている。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

- 【高学年】自分の考えを分かりやすく伝え合い、考えを広げ深め、課題を解決できる児童
- 【中学年】自分の考えを伝え合い、比べながら考え、課題を解決できる児童
- 【低学年】自分の考えを伝え、相手の考えのよさに気づき、課題を解決できる児童
- 【特別支援】自分の気持ちや考えを友達や先生に伝え、課題を解決できる児童

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ◆「はばプラⅡ」に基づいた「沼小スタンダード」の実践を継続するとともに、「はばプラⅡICT活用Version」を参考にした授業づくりをする。
 - ①【学習の見通しをもたせ、主体的な学びを生み出す、単元・授業デザイン】
 - ・単元および題材の課題の解決に向けて、追究意欲や学習内容をつなげる授業づくりをする。
 - ・めあて、見通し、まとめ、振り返りの単位時間の流れ「沼小スタンダード」を徹底する。
 - ②【深まりを生む対話的な学びの工夫】
 - ・追究する場面において、じっくり考える場の設定と、分かりやすく表現し、伝え合える工夫をし、各教科の「見方・考え方」を働かせながら比較・検討し、考えを深めさせる。
 - ③【ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び】
 - ・使うことが目的化することのないよう、効果的な場面での無理のない活用を試行する。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「めあて」等のプレートを使用した板書により、各教科で「沼小スタンダード」が浸透した。学習の流れを見通して課題解決に向かい、集団解決で思考を広げ深める姿や、振り返りを次のめあてにつなぎながら単元の学習を進めていく姿が見られた。
- ・ICTを活用して考え、様々な方法で表現し、全員で共有したり、説明し合ったりしたことにより、コロナ禍においても対話的な学びが促進され、目指す児童像へ近づくことができた。

○課題

- ・クロームブックの活用とノート指導の在り方について検討していく必要がある。
- ・画面共有による考えの交流の仕方について、より効果的な活用法を探る必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ICTのよさを生かした効果的な指導と「沼小スタンダード」の実践を一層充実させていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.19	・研修計画の検討 (全体会①)	○主題、副主題、研修組織、研修計画、目指す児童像の検討 ・昨年度の成果と課題、児童の実態等を踏まえ、これまでの取組にICT活用を組み合わせる今年度の方向性を確認。
5.13	授指導主事訪問A	(中止→管理職参観実施)
5.24	・研修内容、手立て ・ICT研修(全体会②)	○はばプラⅡ、沼小スタンダードの共通理解、Chromebookの使い方。 ・1単位時間の基本的な流れを全員で確認。「めあて」「見通し」「まとめ」「ふり返し」の4つを板書用プレートとして作成し活用。
6.8	5年算数「小数のわり算」 授田島教諭	指授業検討会(高学年部会6.4)→授業(全員参観)→授業研究会(全員参加) ○沼小スタンダードの共通理解と課題の把握、研修の進め方の提示。 ・従来(ICTなし)の算数で沼小スタンダードの基本的な流れを確認。 ・授業検討会は模擬授業形式で行うことを確認。
6.21	・一人1授業公開の計画 ・ICT研修(全体会③)	○B訪問、水準、一人1授業の計画。ロイロノートの使い方。 ・実践について情報交換し、具体的な活用方法を学び合えた。
6.29 7.1	2年算数 「100より大きい数を調べよう」 授見城教諭 授関谷教諭	指授業検討会(低学年部会6.18)→見城教諭プレ授業(部会)→授業研究会 指授業検討会(低学年部会)→関谷教諭授業(全員)→授業研究会(全員) ○ICTを活用した算数での、沼小スタンダードの実践と検討。 ・大型画面で問題提示してめあてをつくる流れ、既習を生かした見通し、自力解決から集団解決、児童の言葉でのまとめ、振り返りでのドリルパーク活用という、基本の流れが共有された。
7.8	言語通級自立活動 授庭野教諭	○言語通級への理解(市言語担当者研修と兼ねる) ・言語通級と、側音化構音(歪み)の改善についての理解。
7.19 7下旬	・教科部会の編成と計画 (全体会④は中止) →各教科部会を実施	○国語・算数・理科・学活・特支の5部会で検討 ・水準とB訪を中心に、単元構想、本時の大体的流れと板書計画、ICTの活用方法等を検討。特支部会は本校の課題解決に向け検討。
8.2	・指導主事との打合せ 1年学活「なかよしのかいをしよう」 指加藤教諭(学活部会) 3年国語「すがたをかえる大豆」 指河野教諭(国語部会) 4年理科「物の体積と温度」 指町田教諭(理科部会) 5年算数「四角形と三角形の面積」 指萩原教諭(算数部会)	○単元構想、本時の流れ、ICT活用について。(授業者と共に部会員も参加) ・議題、低学年での話し合いの進め方、折り合いの付け方、板書計画、ロイロノートのアンケート機能の活用方法等について検討。 ・「読むこと」と「書くこと」の複合単元の構想、筆者の書き方の工夫、ロイロノートを活用して挿絵と言葉を並び替える活動等を検討。 ・学習をまとめ、自然や生活にあてはめる場面での、ロイロノートを活用した課題配付、グループ・集団解決の方法等を検討。 ・台形の面積の求め方を考える際のロイロノートの活用、提出箱の回答共有機能での比較、分類、集団解決の方法等を検討。
8.23	B訪問授業検討 6年国語「『鳥獣戯画』を読む」 指倉澤教諭(国語部会)	○「読むこと」と「書くこと」の複合単元の構想、本時の流れについて。 ・ロイロノートで本文カードを配付、筆者の評価が表れている文に線を引き比較・検討する活動、まとめ、ふり返りの視点等を検討。
9.6	・今後の研修(全体会⑤) 指B訪・水準(教科部会)	○今後の研修の進め方と部会の計画。B訪問・水準の授業検討。 ・ICTを使いながら模擬授業的にいき、具体的に検討ができた。
9.24	B訪模擬授業、検討 6年国語「『鳥獣戯画』を読む」 指倉澤教諭(全体会)	○本時の展開について検討。 ・ロイロノートに示した本文に線を引き、それをもとに交流する活動の見通しがもてた。めあてとまとめについて再検討した。
9.27	6年算数「円の面積」 授今井教諭	指授業検討会(算数部会9.15/9.22)→授業公開(部会)→授業研究会(部会) ○円を含む複合図形の面積の求め方を考え説明する場面 ・自力解決をロック画面で切り上げる、使った形によってカードを色分けして提出させる、回答共有で他者の考えを知り、全体交流で深めるなど、沼小スタンダードとICTの組み合わせが進んだ。
	指B訪問、水準 (全体会⑥・部会)	○B訪問、水準について ・教科部会で指導案検討。
9.28	6年理科「大地のつくり」 授高橋教諭(理科部会)	指授業検討会(理科部会9.16)→授業公開(理科部会)→授業研究会(理科部会) ○前時の実験結果から、地層のでき方を考え表現する場面 ・ロイロノートで撮影した実験結果を活用した考察や交流が、地層のでき方を自分の言葉でまとめることにつながった。振り返りを視点で色分けすることで次時へのつながりも明確になった。
10.4	指導主事訪問B 6年国語「『鳥獣戯画』を読む」 授倉澤教諭	○筆者のものの見方を絵と文章を照らし合わせながら読み取る場面 ・前時の振り返りを生かしためあての設定、ロイロノートで示した本文に傍線を引く自力解決と回答共有、多くの児童の発言で進む集団解決、児童の言葉によるまとめ、振り返りでの色分けなど、

		国語科における沼小スタンダードとICTの組み合わせが進んだ。
11.1 ~5	指 水準・水準プレ (各部会)	○水準指導案検討 ・ICTを使いながら模擬授業を行い、具体的に検討ができた。
11.8	5年算数「四角形と三角形の面積」 授 田島教諭 (算数部会)	○水準プレ授業：ロイロノートで思考、表現、比較することは有効。帰着した形により5色で分類、集団解決の流れについて検討。
11.9	1年学活「なかよしのかいをしよう」 授 外山教諭 (学活部会)	○水準プレ授業：話合いの流れがスムーズであった。ロイロノートのアンケートの提示の仕方や、話合いの振り返りについて検討。
11.10	4年理科「物の体積と温度」 授 町田教諭 (理科部会)	○水準プレ授業：ロイロノートで課題を配付しグループで話し合い解決できた。実験も非常に有効。実験動画の見せ方について検討。
11.11	4年国語「世界にほころ和紙」 授 宮沢教諭 (国語部会)	指 授業検討会(国語部会 11.5)→授業公開(部会)→授業研究会(部会) ○事例の効果を考える場面。 ・ロイロノートの本文カードに線を引く活動は4年生でも有効。自分の考えが書き終わっていなくても集団解決に移ることができ、交流する中で解決していくことの重要性が確認できた。
11.12	3年国語「すがたをかえる大豆」 授 兵藤教諭 (国語部会)	○水準プレ授業：ロイロノートでの例文提示からめあてができ、前時のワークシートや板書から見通しがもて、児童の思考が課題の解決につながった。児童の言葉でまとめる方法について検討。
11.15	・水準準備(全体会⑧→部会)	○最終準備、確認
11.17	1年学活「なかよしのかいをしよう」 授 加藤教諭 (学活部会)	○水準公開授業：「なかよしの会」の遊びや約束を決める場面。 ・ロイロノートのアンケートを活用し、考えを比較したり修正したりしながら集団決定ができた。全員が学級会の流れを、計画委員が自分の役割を理解し、スムーズに話合いを進めることができた。
	3年国語「すがたをかえる大豆」 授 河野教諭 (国語部会)	○水準公開授業：例示の順序について考える場面。 ・ノートに書いた自分の考えをロイロで撮影して提出、共有することで考えが広がった。単元のゴールに向け、振り返りとめあてをつなげ、身につけさせたい力を付けていく構成が効果的であった。
	4年理科「物の体積と温度」 授 町田教諭 (理科部会)	○水準公開授業：学んだことを日常生活に結びつけて考える場面。 ・班ごとに異なる課題を配付し、それを提示しながら説明し合うことで、互いの考えを比較しながら解決することができた。板書、実物提示、ICT、それぞれのよさを取り入れることができた。
	5年算数「四角形と三角形の面積」 授 萩原教諭 (算数部会)	○水準公開授業：台形の面積の求め方を考える場面。 ・ロイロノートのカードを使うことで、自分の考えが図や式で簡単に分かりやすく表せ、集団解決時の説明に生かされた。色分けによる類別が有効で、考えが広がるとともに、見取りにも役立った。
11.29	・研修のまとめ(全体会⑨)	○水準の各部会の報告とまとめ
1.24	・研修のまとめ(全体会⑩)	○成果と課題の検討、来年度の方向性の確認
2.21	1年学活「おわかれしょうかいをけいかくしよう」 授 加藤教諭	○学活における「沼小スタンダード」の共通理解 ・1年の学活を全員で参観し、話合い活動の基本的な進め方を共有。
3.14	・来年度の計画(全体会⑪)	○来年度の計画の検討

※資質向上研修

	区 分	講 師	内 容
6.21	保健に関する研修	養護教諭 中條 恭子	・エピペンの使い方について
11.29	教育相談に関する研修	スクールカウンセラー 原澤 幾子	・子どもの双極性障害について
2.21	道徳に関する研修	道徳主任 町田 友香	・中央研修の報告

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	荒木富美子	教 諭	宮沢菜穂子	養護教諭	中條 恭子
教 頭	大竹 敏之	〃	河野 徳子	主任事務長代理	石山 朝香
教 諭	庭野 隆	〃	小熊 一洋	主任務員	樋口 元二
〃	関谷ゆかり	〃	神田 景子	学校教育支援員	原澤 智美
〃	今井由香利	〃	萩原 一貴	〃	黒沢 伸江
〃	小野里純子	〃	兵藤 寛山	生活相談員	小林 昌子
〃	星野美由紀	〃	高橋 明弘	初任研後補充非常勤講師	宮内 啓悟
〃	倉澤 泰子	〃	外山 明子	拠点校指導員	下田 洋一
〃	加藤 美恵	〃	原 晃子	教育DX推進スタッフ	小林真理子
〃	田島 晃代	〃	見城麻桜香	スクールカウンセラー	原澤 幾子
〃	町田 友香	〃	福岡 智子		

沼田東小学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801-1
電話番号 0278-23-1118 FAX 22-0781
校長名 松井 秀幸

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) 基本目標 「心豊かで、よく学び、生きる力みなぎる沼東小っ子」の育成
- (2) 具体目標 ○がまん強く元気な子 ○正しいことを進んでする子
○よく見よく聞き考える子 ○なかよくたがいに助け合う子
○いつもまじめに働く子

2 経営方針

(1) 目指す学校像

「子どもが明るく元気に通える学校」 「保護者が信頼して任せられる学校」
「地域が誇りにできる学校」 「教師のよさを発揮できる学校」

(2) 目指す子ども像

「ひ」 人の気持ちを感じ取り、行動する子
「が」 学力向上に向け、頑張り通す子
「し」 心身の健康を考え、生活する子

(3) 目指す教職員像

「子どもに夢や理想をもたせる教職員」 「子どもの個性や能力を伸ばす教職員」
「保護者、地域、同僚から信頼される教職員」

3 本年度の重点施策

(1) 豊かな人間性の育成 「ひ」人の気持ちを感じ取り、行動する子

- ①人権教育や道徳教育の充実により、他人の身になって考え、好ましい行動ができる子を育成する。
- ②生活五原則(あいさつ・返事・整理整頓・無言清掃・時間を守る)の取組を通して、基本的な生活習慣の確立に努める。
- ③工夫した読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
- ④全職員で子ども理解に努め、スクールカウンセラー等との連携を密にし、子ども一人一人が自分の居場所を見付け、自己有用感を高められるような態勢をつくる。
- ⑤互いの尊厳を認め合いながら、沼田特別支援学校との交流を通して思いやりの心を育てる。

(2) 学力の向上 「が」学力向上に向け、頑張り通す子

- ①課題を明確にした「めあて」の明示、精選された子ども主体の学習活動、「見通し」と「振り返り」の充実により授業改善を行い、子どもが学びを通して成長を実感できるようにする。
- ②教科担当制の導入、ICTの活用、授業と結びついた宿題、漢字・算数コンテスト、おもしろ算数教室等の取組の充実により、さらなる基礎・基本の定着を図っていく。

(3) 心身の健康・体力の向上 「し」心身の健康を考え、生活する子

- ①体力向上プランの確実な実施と、運動量を確保した体育の授業の充実により、体力の向上を図る。
- ②感染症対策の強化、基本的な生活習慣の確立、疾病治療を家庭に呼びかける等を通して、健康教育の充実を図る。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 主体的に学習に取り組む児童の育成

副主題 ～1人1台端末の有効な活用を通して～

児童の実態との関わり

- ・学習意欲があり、自分の考えをもつことができるが、それを他者に伝えることが、全体的に、やや苦手である。
- ・自分の考えを伝えるときに、言葉だけに頼りがちで、資料等、根拠を元にした発表や説明が苦手な児童が、どの学年にも見られる。
- ・自分の考えと友達のことを比較検討し、よりよい考えや解決方法へと高めることが、やや苦手である。

指導の在り方との関わり

- ・対面授業の中だけでなく、1人1台端末を使う中で、それまで挙手をせず発言することができなかった児童も、全体の中で取り上げることができるよう、授業の形態を工夫する。(ハイブリッドな授業を目指す。)
- ・1人1台端末を使うことで、図や写真、グラフなど視覚に訴えるものを用いながら、考えを伝える場を授業の中に設定できるように工夫する。
- ・全体指導の中で、実物投影機等でやってきた役割を、1人1台端末にも担わせることで、友達の考えを知る機会を増やし、児童の課題解決に役立てるようにする。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

学年に応じ、積極的に1人1台端末を使って、それぞれの課題を解決したり、意見や考えを伝えたりすることができる児童。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・「写真を撮る等の機能を使い、情報を共有する」「調べたいことを検索し、必要な情報を集める」「調べたことを加工したり、編集したりする」「1人1台端末を使って意見を交流する」「1人1台端末を使って発表する」等、様々な学年・教科等で、1人1台端末を使った授業に挑戦し、試行錯誤を繰り返す中で、有効な活用方法を探っていく。
- ・有効な方法を蓄積、共有していく中で、1人1台端末を使った授業における原則をいくつか抽出できるようにする。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「chromebook の画面を大型スクリーンに映す際の原則」を4つ、「授業で使う際の原則」を21、「その他の原則」を4つ、明らかにすることができた。
- ・とにかく、様々な教科、様々な場面で chromebook を使ってみる段階から、chromebook を使うことの必然性がある場面で使おうとする段階へと教師の意識が高まってきた。

○課題

- ・chromebook を使う必然性がある教科や、授業のどの段階(場面)で使うと良いかは、いくつかは明らかになってきたが、いずれにしてもまだ圧倒的に少ない状態である。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・正解だけを求めるのではなく、失敗を恐れず、さらに「chromebook を使う必然性」に関わる部分を明白にできるよう、チャレンジを続けていきたい。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○端末使用の原則(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.26	全体会① ・研修内容の共通理解 ・ミニ研修計画の作成	○研修主題、研修内容・方法の検討、研修計画書の検討をした。
5.10	全体会② ・一人一授業の計画	○一人一授業の計画 ○学年毎の手立て等について、共通理解できた。

・研修計画について共通理解			
5.11	4年理科	授 今井教諭 「天気と気温」	○資料を比較させるには、1人1人の手元に資料を送ることができ、chromebookが極めて有効である。 ・晴れた日の服装と曇りの日の服装の違いがわかる写真を数枚送り、比較させ、違いを考えさせた。そこから晴れた日と曇りの日の一日の気温の変化予想につなげたが、大変効果的であった。
5.12	6年国語	授 石井教諭 「季節の言葉①」	○キーボードでの文字入力に個人差があり、学習プリント等に手書きで書いた方がよい児童にはそこに書かせ、そのプリント等を写真に撮りロイロノートでカードにし、提出してもよい。 ・シンキングツール「フィッシュボーン」を使い、俳句を作る際のイメージ語等をまとめさせた際に、個人差に配慮でき、また俳句の作成においても、有効であった。
5.26	5年国語	授 千明教諭 「漢字の成り立ち」	○クラス全員分の画面提示は、シンプルなものが良い。 ・土から出た子葉や本葉の絵の上に、その絵からできた漢字を予想し指で書かせ、提出箱を通して、共有した。全員が一斉に作業し、作品を一目で確認でき、大変効果的であった。
5.27	言葉の教室 言語学習	授 小川教諭 「よく来て言ってみよう(カ行音)」	○お手本の音声を、繰り返し練習する場面では、ICT機器が有効であり、児童の声や活動の様子を見るにも優れた効果がある。 ・パソコンを使った発音の繰り返し練習。ipadを使って撮影、視聴後の自己評価と、課題克服のための練習が効果的だった。
6.14	全体会③ ・部会別授業計画・準備		○情報交換及び授業見学での指導・助言等の確認ができた。 ○今までの一人一授業の研究授業で確認できた原則の共有。今後の一人一授業に向けての準備ができた。
6.16	6年道徳	授 星野教諭 「自由と責任」	○道徳などで、授業の前後にアンケートを示す際に、ロイロノートのアンケート機能を使うと、すぐにその結果が棒グラフで視覚的に理解でき、効果的である。 ・クラスの実態を示す際、ロイロノートのアンケート機能を使い、視覚的な効果として、画期的な効果があった。
6.30	ひまわり1組	授 富沢教諭 「何時・何分」	○キーボードでの文字入力に個人差があり、学習プリント等に手書きで書いた方がよい児童には、そこに書かせ、そのプリント等を写真に撮りロイロノートでカードにし、提出してもよい。 ・ワークシートでも、ロイロノートのカードでも、使いやすい方で取り組ませたことが、児童のやる気を喚起する上で有効であった。また、時計の短針を指で書かせたことも効果的だった。
7.07	ひまわり4組	授 白石教諭 「5年日常を17音で」 「6年たのしみは」	○俳句や短歌作りの、伝えたいことや言葉を見付ける場面において、chromebookの検索機能を使うことで、語彙力の個人差を補完でき、推敲も容易で、集中して取組、大変効果的であった。 ・伝えたいことや言葉を見付ける際に、検索機能が有効であり、文字表記が苦手な児童も、韻文の作成に集中して取り組めた。
8.30	全体会④ ・1学期の授業実践の成果と課題、2学期に向けた改善点		○1学期の授業実践の成果と課題について確認できた。 ○ミニ研修活動計画の確認及び一人一授業の指導案検討を行うことができた。さらに指導主事要請訪問Bの授業の大まかな授業構想を共通理解できた。(第1回指導案検討)
9.02	2年図工	授 片野教諭 「思い出を形に」	○図工など、作品の鑑賞場面では、ロイロノートの「提出箱」の機能を使うと、鑑賞文を書かせる際に極めて有効である。 ・一人一人「提出箱」に個々の作品を様々な角度から撮影した写真(つないだもの)を提出させ、見ながら鑑賞文を書かせたことで、全員の児童がスムーズに取り組むことができた。
9.28	ひまわり2組	授 小野教諭 「たのしいバス旅行」	○少人数の学級のプレゼンテーション型の授業では、大型スクリーンやテレビでの提示が、集中力の持続には効果的である。 ・バス旅行の行き先を確認する際に、その場所の写真や図を、学級のテレビに映して問答式で進めた。児童をテレビの前に集め、右斜め前方に教師。約30分の間集中力を欠くことがなかった。
10.11	全体会⑤ 指 B訪問指導案検討		○第2回指導案検討、模擬授業の日程計画ができた。 職員全員で、教示文の「全文要約」を行い、要約についての理解を深めた。その上で、授業の流れや指導案の文言などを、全員参加で、検討することができた。
10.19	2年算数	授 佐々木教諭 「新しい計算を考えよう」	○写真で撮ってきたものを共有することで、くり返し学習することができ、写真の上に、児童が分かったことなどを書き込むことは、知識や技能を定着させるためには、極めて有効である。 ・児童が集めてきた身の回りにある「○×□」の写真を提出箱に提出させ、共有させることで、全員が友達の写真からかけ算の式を見付けることができた。
10.20	3年社会	授 原澤教諭 「店ではたらく人」	○教師が分類の「観点」を決めることは、シンキングツールのYチャート・Xチャート・座標軸等で分類し、共通点や相違点を見付けながら思考力を高めていくのに、極めて有効である。 ・スーパーマーケットの見学を通して見付けてきた店の「工夫」を、Xチャートで分類する作業を通して、お店の人の工夫について様々な角度から理解を深めることができた。
10.22	4年	授 林教諭	○要約の授業をする際に、ロイロノートを使い1つのカードに一

	国語	国語B訪問プレ授業 「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」	つの「キーワード」「キーセンテンス」「キーフレーズ」などを作成。その中から大事だと思う3～4のカードを使い、ロイロノートの新しいカードに要約していく作業は、何度も推敲し、まとめる上で、極めて有効である。 ・前時までの要約の作業で出てきた「キーワード」等から3～4のカードを選択し、50字程度で全文要約することができた。
10.25	ひまわり3組 国語	授 栞原教諭 3年国語 「山小屋で三日間過ごすなら」	○教師が分類の「観点」を決めることは、シンキングツールのYチャート・Xチャート・座標軸等で分類し、共通点や相違点を見つけながら思考力を高めていくのに、極めて有効である。 ・「山小屋で三日間過ごすなら」の中で、何を持っていくか3観点を示し、Y字チャートを使って分類することができた。
10.25	全体会⑥ ・B訪問	に向けた最終確認	○指導主事訪問の最終確認、準備ができた。
10.29	3年 国語	授 植木教諭 3年国語 「山小屋で三日間過ごすなら」	○子どもたちが書き込んだカードを「とても重要→重要→その他」で分類する際には、ピラミッドチャートが大変有効である。 ・「山小屋で三日間過ごすなら」の中で、3つの観点を記したピラミッドチャートを全員に配付し、個人でカードの整理をさせ分類する話し合い、に誰もが積極的に参加することができた。
11.02	4年 国語	授 指導主事訪問B 見城朋子教諭 4年国語 「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」	○要約の授業をする際に、ロイロノートを使い1つのカードに一つの「キーワード」「キーセンテンス」「キーフレーズ」などを作成。その中から大事だと思う3～4のカードを使い、ロイロノートの新しいカードに要約していく作業は、何度も推敲し、まとめる上で、極めて有効である。 ・児童が提出した要約文の中から、二つを選択し、共通点、相違点などを取り上げ、全体で共有し、理解を深めることができた。
11.09	3年 英語	授 関教諭 6年英語	○英会話で、アンケート機能を使い、相互評価させることは、改善の参考にし、自信を持たせるために、大変有効である。 ・ペアでスピーチを相互に行い、それぞれ提出箱の共有された個別のアンケートに答え、さらに相手を変えてこれを繰り返すことで、友達からの評価が蓄積されていき非常に効果的であった。
11.10	1年 国語	授 見城美教諭 1年算数 「ひきざん」	○ロイロノートのカードに自分の考えを指で書き、あるいは、学習プリントに自分の考えを書きカメラで撮ったカードを提出箱に提出する、という行為は、1年生でも可能で大変有効である。 ・ロイロノートの提出箱は、提出状況が一目で見られ、発表者は拡大された自分のカードを見ながら 誇らしげに発表できた。
11.29	全体会⑦ ・今後の研修の方向性の確認 ・一人一授業の報告と確認		○今後の研修の方向性の確認と共有ができた ・指導主事要請訪問Bで指導されたことの確認と共有。 ・一人一授業から明らかになった29の原則の確認と共有。
1.17	全体会⑧ ・成果と課題		○2学期の授業実践の成果と課題
2.07	全体会⑨ ・研修のまとめ ・来年度の計画検討		○研修の成果と課題のまとめ ○来年度の研修の方向性について検討
3.07	全体会⑩ 研修のまとめ ・来年度の計画検討		○研修の成果と課題のまとめ ○来年度の研修テーマ、サブテーマについて検討

＜ 職 員 一 覧 ＞

職 名	氏 名
校 長	松 井 秀 幸
教 頭	下 田 明 子
教 諭	今 井 美 重
〃	見 城 美 津 子
〃	千 明 浩 己
〃	小 野 圭 三
〃	佐々木 典 子
〃	見 城 朋 子
〃	植 木 み どり
〃	原 澤 ち あ き
〃	小 川 賢 治

職 名	氏 名
教 諭	栞 原 智 恵
〃	石 井 千 恵 美
〃	小 野 千 恵 美
〃	関 真 美
〃	林 杏 佳 音
初任研修拠点校指導員	下 田 洋 一
教 諭	富 沢 訓 子
〃	白 石 沙 耶 香
〃	片 野 絵 理
〃	星 野 颯
教育センター置籍	小 林 拓 美

職 名	氏 名
養護教諭	佐 藤 敦 子
事務主任	井 田 健 司
事務主事	星 野 久 実 子
スクールカウンセラー	阿 左 見 康 成
教育DX	荒 井 敬 子
生活相談員	中 澤 直 子
学校支援員	真 庭 由 喜 枝
〃	金 子 ち ひ ろ
〃	北 村 恵 美 子
〃	横 山 利 香
用 務 員	霜 下 猛

沼田北小学校

所在地 〒378-0056 沼田市高橋場町4898
電話番号 0278-24-4123 FAX 0278-22-0782
校長名 諸田 義行

I 学校の経営

1 学校教育目標

- (1) 基本目標 自ら学び、豊かな心とたくましい実践力を備えた児童の育成を目指す
- (2) 具体目標 〈目指す児童像〉
 - よくまなぶ子
 - 心ゆたかな子
 - たくましい子

2 経営の方針

- (1) 全教職員が力を合わせて主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の強化：**チーム北小**
- (2) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識を育む安全教育の充実
- (3) 「よくまなぶ子」を育てるための、授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (4) 「心ゆたかな子」を育てるための、道徳教育の充実と心の教育の推進
- (5) 「たくましい子」を育てるための、運動への主体的な取組と保健教育の推進
- (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力…学社連携・学校間連携等の取組の充実

3 本年度の重点施策 《 》は沼田市独自施策との関連

(1) 「チーム北小」の強化に向けて

- ①職種に応じ専門職としての自覚と誇りをもった職務の遂行
- ②すべての教職員が互いに関わり合って子どもを育てる意識の共有

(2) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識の育成に向けて

- ①新型コロナウイルス感染症対策の徹底と「新しい学校生活」の継続実施
- ②施設・設備の定期点検に迅速に対応するとともに、様々な状況を想定した危機管理体制の充実

【セイフティ沼田】

- ③アレルギー事故の未然防止、危機管理マニュアルの実効性を高める訓練や研修等による危険予測・回避能力の育成

(3) 「よく学ぶ子」の育成に向けて

- ①学力向上対策の組織的・計画的な実施
- ②育てたい資質・能力を明確にし「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進
- ③めあてと見通し、振り返りを位置付けた授業構想**【振り返り学習】**
- ④学習の習慣化を図り、自ら学ぶ意欲を高め学び方を身に付けさせる家庭学習指導の工夫
- ⑤1人1台コンピュータの効果的な活用

(4) 「心ゆたかな子」の育成に向けて

- ①「特別の教科道徳」の授業の充実と全教育活動とおした心の教育の計画的な実践
- ②多面的な生徒理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」「自己有用感」の育成
- ③いじめを許さない心を育てるための子ども主体のいじめ防止活動の充実
- ④「キマニド読書」の推進による読書活動の推進**【家族で本を読みましょう】**

(5) 「たくましい子」の育成に向けて

- ①体力向上プランに基づいた体育の授業の充実
- ②共に切磋琢磨する「北っ子タイム」「体力づくり」の充実と業間の運動の推進
- ③自分の健康を自分で守るための学校保健、食育の推進

(6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力に向けて

- ①学校評価等による保護者や地域の意識の把握、各種たより等による積極的な情報発信
- ②「学校支援センター」の機能を生かした学習ボランティアとの連携の推進
- ③登下校の安全を確保するための「防犯パトロール隊」との連携
- ④隣接小中学校との連携**【小中連携・一貫教育】**

令和3年度校内研修経過報告書

沼田市立沼田北小学校
校長 諸田 義行
研修主任 戸部 亜由美

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主題 主体的に学ぶ北っ子の育成
副主題 ～国語科における児童が主体的に取り組む言語活動の工夫を通して～

児童の実態との関わり

- ・NRTの結果では「読むこと」の説明的な文章の読み取りで落ち込みがやや見られる。
- ・図表やグラフなど数種の情報から読み取る問題において、特に誤答や無答が見られる。
- ・児童間に学力差だけでなく、学習意欲の差が見られる。
- ・単位時間や単元の振り返りにおいて児童が自分の言葉で振り返りを書けるようになってきた。

指導の在り方との関わり

- ・昨年度の実践から、言語活動を明確にし、単元のめあてを意識して学習を進めたことは、児童の主体的な学びにつながった。
- ・共通実践する手立てや目指す児童像についての共通理解が不十分な部分があり、今年度は昨年度の研修を生かし、「読むこと」の説明的な文章に絞って指導の工夫をしていく。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

単元の課題解決の見通しをもって主体的に学習に取り組み、文章を読んで理解したことをもとに、自分の感想や考えをまとめている。

- 【低学年】…文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
- 【中学年】…文章を読んで理解したことに基ついて、感想や考えをもっている。
- 【高学年】…文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめている。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、各学年で育てたい資質・能力を明確にし、必要感のある言語活動を設定した単元構成をしていく。
- ・児童が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、単元および単位時間の導入場面において、学習課題の提示方法を工夫する。
- ・学習課題に対する単位時間ごとの振り返りを次時の学習につなげていくとともに、単元を通して何ができるようになったかを単元全体の振り返りの過程で考えさせる。

3 研修計画・経過報告 (裏面)

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・課題解決への見通しをもたせる工夫をしたことにより、目的意識をもって学習に取り組む児童の姿が見られた。
- ・説明的な文章にしぼって研修したことにより、他学年や他教科でも参観した授業の手立てを生かすことができた。

○課題

- ・説明的な文章にしぼったことで、研究授業を行う場面が限られたものになってしまったり、授業の入れ替えが難しかったりした。
- ・1学期中の授業実践や授業研究会、ICTの活用など限られた時間の中での情報共有が難しかった。

○課題解決に向けた今後の取組

- ・本年度の取組をもとに、来年度は他教科で「はばプラⅡ」をもとに共通実践する手立てを取り入れていく。
- ・校内研修の中で授業研究会がもてるよう、年度当初に年間を見通した授業計画を立てていく。

3 研修計画・経過報告

共通実践する手立て「児童が主体的に学習に取り組むことができるような言語活動の工夫」に着目した研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月・日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
04.08	研修①推	今年度の研修計画立案 ○研修計画(主題・内容・方法・研修計画)
04.19	研修②全	今年度の研修の方向性の確認 ○研修主題、研修の方法についての確認 ・国語科の「読むこと」の説明的な文章の単元を中心に共通実践する手立てを考えていく。
04.30		研修主任会
05.21		授指導主事 A 訪問→中止
06.14	研修③全	評価について ○通知票及び指導要録の評価方法についての共通理解 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての確認
07.01	授5年国語 藤井教諭	「見立てる」 「言葉の意味が分かること」 ○主体的に学習に取り組むことができるような必要感のある言語活動 ・文章構成について考えるために短冊の並び替えをさせたことにより、児童が根拠を明らかにしながらお互いの考えを共有することができた。
07.02	授5年国語 荒平教諭	「見立てる」 「言葉の意味が分かること」 ○単元のためを意識した、各単位時間のめあてについて ・単元のため及び既習事項をもとにしながら、児童と本時のめあてを確認した。 ・系統を意識した指導、全員が取り組める学習活動を取り入れていくことの必要性を確認できた。
07.09	授6年国語 深津教諭	「笑うから楽しい」 「時計の時間と心の時間」 ○既習事項と関連付けた授業作りについて ・文章構成について理解するためのポイントを掲示したことは、児童が理解するための手立てとなった。
07.12	研修④全	1学期の授業の反省 ○共通実践する手立てに関連したポイントの確認 ・系統を意識した指導計画、全員が取り組める学習活動、視覚資料の活用など、ここまでの研究授業における有効な手立てについて確認できた。
夏季休業中		B 訪問に向けた指導案作り
08.30	研修⑤全	指ブロック別指導案検討 ○必要感のある言語活動を設定した単元構成 ・複合単元の中で、本校の目指す児童像をどのように達成していくか、学習課題や言語活動、評価項目について検討を行った。
09.03	授2年国語 戸部教諭	「どうぶつ園のじゅうい」 ○学習課題の提示方法の工夫 ・既習の説明文単元での学習をデジタル教科書等を手がかりに想起させたことは、本単元との学習のつながりや見通しを意識させることにつながった。
09.07 09.08	授4年国語 田邊教諭 (ブロック代表)	「世界にはほころ和紙」 「百科事典での調べ方」 「伝統工芸のよさを伝えよう」 ○学習課題の提示方法の工夫 ・伝統工芸品やリーフレット等実物を見せることで、児童が教材への興味・関心を高めることができた。 ・児童の言葉をもとに学習課題を作っていくことは、主体的な学びにつながる手立てである。
09.24	研修⑥全	指B 訪問指導案検討 ○B 訪問指導案検討 ・単元の見通しの持たせ方、学習課題の示し方について再検討を行った。
10.11	授6年算数 上山教諭	「比例の関係をくわしく調べよう」 ○既習事項の復習をもとにした学習の見通しの持たせ方 ・5年時の既習事項を復習したことで、比例関係にあるかどうかを見分けさせることができた。 ・より効果的な ICT 活用場面の設定が必要である。
10.12	授4年国語 渡辺教諭	「ごんぎつね」 ○物語文の学習の導入における学習の見通しの持たせ方 ・登場人物の気持ちを心情曲線に表す活動が学習の見通しをもたせるのに効果的だった。
10.20	授3年国語 荒木教諭	授指導主事 B 訪問 「すがたをかえる大豆」 「科学読み物での調べ方」 「食べ物のひみつを教えます」 ○必要感のある言語活動を設定した単元構成 
10.29	授3年社会 真庭教諭	「火事からくらしを守る」 ○資料をもとにした単元の課題及び学習の見通しの持たせ方 ・グラフや写真など児童に身近な資料の提示により、興味・関心を高め、課題を意識させることができた。 ・資料提示のタイミングの工夫が必要である。

11.08	研修⑦全	B 訪問を受けての課題	○B訪問を受けての成果と課題 ・学習課題の提示方法の工夫や既習事項を意識した指導により、課題設定が効果的になされ、児童が今後の学習に見通しをもつことができた。 ・指導案に振り返りであらわれてほしい姿を示し、めあて、学習活動、評価項目のずれをなくしていく。
11.12	授1年国語 角田淑子教諭	「じどう車くらべ」	○既習事項の復習をもとにした学習の見通しのもたせ方 ・生活経験と関連させた導入やデジタル教科書などの視覚的支援が1年生には効果的であった。
11.18	授1年自立活動 林教諭	「すらすらよみにチャレンジ」	○児童の学習意欲を高めるための学習活動の工夫 ・ゲーム形式を取り入れることにより、児童が楽しみながら学習に取り組むことができていた。
11.19	授5年体育 山口教諭	「バスケットボール」	○体育授業でのICT活用 ・ロイロノートの活用により、児童が作戦を多面的に考えることができた。
11.24	授1年国語 小嶋教諭	「じどう車くらべ」	○必要感のある言語活動を設定した単元構成 ・個人で書く前に教科書本文をもとに説明文の大事な言葉などを板書を使ってきちんと押さえることができた。
12.13	研修⑧全	2学期の成果と課題	○代表授業及び一人一授業の成果と課題 ・課題解決への見通しをもたせる工夫をしたことにより、目的意識をもって学習に取り組む児童の姿が見られた。 ・めあてを意識した振り返りができるようになってきた。
冬季休業中	年間指導計画の朱書き・教材整理		
01.17	研修⑨全	今年度の成果と課題	○研修の成果と課題
02.02	研修推	次年度の研修について	○研修主題、研修内容等について
02.14	研修⑩全	次年度の研修について	○次年度の研修の方向性について

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
05.13	情報研修①	ロイロ講師 (zoom)	○ロイロノートの基本的操作の理解「はじめてのロイロセミナー」 ・基本的操作の理解、テストカード等について
05.19	情報研修②	東日本電信電話株式会社 群馬支店	○Chromebookの基本的操作方法の理解「Chromebook 教員向け研修」 ・Chromebookの基本的操作、GoogleClassroomの活用方法 (Googleドライブ・GoogleMeet・Jamboard等の活用について)
05.31	保健研修	養護教諭	○アレルギー対応について ・エビペンの使用方法、児童への対応の共通理解
	学力向上研修①	学力向上C	○本年度の学力向上対策の共通理解 ・めあてと見通し、まとめと振り返りを位置付けた授業改善、「北っ子式学力アップ作戦」の徹底、授業支援ソフト・学習支援ソフトの活用について共通理解を図った。
06.14	特別支援研修	沼田特別支援学校 伊藤先生	○各学級における支援を要する児童への合理的配慮について ・児童の特性理解、どの児童にとっても学習しやすい環境を整える。
07.26 07.27 08.20	情報研修③	ロイロ講師 長期研修員	○一人一台端末の授業での活用について ・一人一台端末の活用について
02.14	学力向上研修②	学力向上C	・学力検査結果考察による児童の実態把握と指導改善

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	諸田 義行	教諭	角田 泉	教諭	山口 傑
教頭	吉田 広幸	教諭	戸部 亜由美	養護教諭	真船 由美子
教諭	真庭 秀樹	教諭	真下 一平	主任事務長代理	川浦 博史
教諭	角田 淑子	教諭	荒木 麻弥	きめ細か講師	宇敷 輝男
教諭	藤井 剛史	教諭	本多 真美	生活相談員	大竹 順子
教諭	渡辺 真弓	教諭	上山 和真	学習支援員	塩野 美喜
教諭	林 昭恵	教諭	小嶋 幸菜		國井 みゆき
教諭	深津 美帆	教諭	田邊 瞳	用務員	田村 健司
教諭	荒平 和世	教諭	内堀 久美子		

升形小学校

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141
電話番号 0278-22-3107 FAX 22-0783
校長名 森下和樹

I 学校の経営

1 学校の教育目標

基本目標 夢をもち、自ら学び心豊かにたくましく生きる児童の育成

具体目標 ○進んで学ぶ子 (自ら学び、よく考える子)

○思いやりのある子 (相手の気持ちを考え、仲良くできる子)

○ねばり強い子 (心身共に健康で、最後までがんばる子)

2 経営方針

《目指す学校像》 子どもが輝き、今日が楽しく、明日が待たれる学校

《目指す教師像》 組織の一員としての意識を高め、組織的・協働的に教育活動を推進する教師
授業改善と工夫により、授業力を高めようとする教師
児童や保護者、地域から信頼される教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成

【振り返り学習のすすめ】【家族で本を読みましよう】

①「升形小学校学力向上指導改善プラン」をもとに、「めあて、見通し、振り返り」を意識した授業を実践する。

②一人一台端末を活用し、児童の主体的な取組による学習活動を充実させる。

③教科担任制等、指導体制の工夫により、専門性を活かしたきめ細かな指導の充実により、学力の向上を図る。

④「升形小家庭学習のすすめ」をもとに、家庭と連携した家庭学習習慣・読書習慣の確立を図る。

(2) 健やかな体の育成

【セイフティ沼田】

①感染症対策の徹底と家庭と連携した取組により、「元気ウィーク」「升形ますます元気の日」をいかなしながら基本的生活習慣の確立を目指す。

②体力向上プランの確実な実践と教科体育の充実により、運動の機会を確保し体力向上を図る。

③各種の避難訓練と安全教育を結びつけ、児童の危機回避能力を高める。

(3) 豊かな心の育成

【児童生徒の命を守り、育てる教育】

①校内研修の道徳科の継続により、一人一人のよさを伸ばしながらよりよく生きようとする意識を高める授業実践を行う。

②団活動や学級の活動を通して、個々に活躍場面を与え、自己有用感や自己肯定感を育成する。

③人権教育の充実と生命の大切さを考える活動を取り入れ、いじめや差別を許さない心を育てる。

④日常の生活指導の中で「あいさつ」「返事」「感謝」の大切さや規範意識を高める指導を継続して行う。

(4) 特別支援教育の充実

①校内支援委員会を学校全体での支援体制を強化するとともに、個別の教育支援計画や指導計画に基づき、個に応じた指導・支援の充実を図る。

②保護者、SC、専門相談員、関係機関等と連携し、児童への指導・支援の充実を図る。

(5) 家庭・地域と連携した教育活動の充実

【沼田大好き！ふるさと学習】【幼小中連携】

①地域の人材や文化を活用した体験活動により、総合的な学習内容の充実を図る。

②学校評価により保護者、地域の意識を把握するとともに、学校からの各種便り等で情報発信し、学校と家庭、地域との相互理解を深める。

③隣接する幼・中・高校と連携し異年齢集団との教育活動を充実させる。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
副主題 ～道徳科における考えを交流する活動を通して～

児童の実態との関わり

- ・道徳的価値を自分事として捉え、自分自身の生活と関連させた考えや思いをもつことが難しい。
- ・考えを伝えることはできるが、友達の考えを聞いて、比較したり、新しい考えを取り入れたりしながら、自分の考えを表現することができない。
- ・これまでの自分やこれからの生活についての問題意識をもった振り返りが十分ではない。

指導の在り方との関わり

- ・道徳的な価値についての児童の考えの把握が十分でなく、考えさせたい道徳的価値からずれてしまうことがある。
- ・交流活動の視点が明確にならず、友達の考えを聞いた上で、互いに考えを深められる交流活動までには至っていない。
- ・振り返りにおいて、自分の体験などやこれからの生活との結び付きを十分に考えさせられていない。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

道徳的価値と自分との関わりについて考えをもち、道徳的価値について、よりよい自分に向けての思いや願いを深めることができる児童

【低学年】道徳的価値を自分のこととして考え、友達の考えに共感し、よりよい自分に向けての思いや願いをもつことができる児童

【中学年】道徳的価値を自分のこととして考え、友達の考えと比較し、よりよい自分に向けての思いや願いを広げることができる児童

【高学年】道徳的価値と自分との関わりについて考え、友達の考えを取り入れ、よりよい自分に向けての思いや願いを深めることができる児童

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・道徳的な価値について児童がどのような考えをもつのかを検討し、めあてを設定する。
- ・自分との関わりで道徳的な価値を理解する場において、中心発問を吟味したり、切り返しの発問などを含めた効果的な発問の構成を工夫したりする。
- ・中心発問や振り返りの場において交流活動を取り入れ、児童が考えの違いや変化などに着目できるような活動や話し合う視点を工夫する。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・中心発問を吟味し的確に設定したことにより、児童が道徳的な価値について正しく理解したり、多様な考えをもったりすることができた。
- ・適切なめあてを設定し、導入で経験等との関連を想起させながらめあてにつなげることで、児童にとって学習しやすい展開になり、自分事として振り返りができるようになってきた。
- ・ロイロノートアンケートや心情メーターの活用により、児童が心情を表現することが容易になり、自分事として考えることができた。
- ・友達の考えを共有・比較できる手立てを工夫することにより、児童が自分や友達の考えを確認しながら、考えを深めることができた。

○課題

- ・中心発問や振り返りの場で、問い返しや揺さぶりの発問で掘り下げたり、深めたりする必要がある。
- ・児童の考えを共有・比較する手立ての工夫をさらにしていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業前に、児童の考えを想定した補助発問を考えておく。
- ・ICT を用いた考えを共有・比較する手立てを工夫するとともに、視点をはっきりさせて、交流活動を行い、友達の考えに対する自分の考えを伝えることも取り入れていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [〇研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.26	・研修主題・内容・方法・ についての検討	〇研修主題・内容・方法について ・共通理解の下に交流活動を取り入れた授業実践を行い、成果と課題を積み重ねていく。
5.19	・研修内容・計画の検討	〇道徳科の授業作り・共通実践の手立てについて ・明確な指導観をもって授業を構想し、1時間の学習過程を組み立てていくことが重要である。
6.21	・授業実践の計画	〇授業実践の計画・流れについて ・ブロックまたは全体で指導案検討や研究会を行い、成果と課題を共有していく。
7.6	・授業実践 3年道徳科 主題名「相手とわかり合っ て」【B:相互理解・寛容】 授 松山教諭 	〇人物の気持ちの揺れや変化を視覚的に捉えさせたり、考えを表現させるための心情メーターの活用の有効性について (成果) ・心情メーターを活用することで、児童が主人公の気持ちの揺れを表現でき、交流活動において効果的であった。 ・心情メーターとワークシートを用いた交流活動により、児童が自分と友達の考えを比較することができた。 (課題) ・中心発問の部分で、考える時間を確保するとともに、問い返しや揺さぶりの発問で掘り下げる必要がある。 ・振り返りの場面で、ねらいに迫れるように児童の経験を引き出す補助発問等をする必要がある。
夏季休業中	・授業構想 (各学年) ・研究の内容の確認	
8.24	・指 B訪問授業 検討①	〇効果的な導入:児童の考えを引き出すための交流の方法について ・考えを表現するのが難しい児童に対する支援も含め、選択して回答する方法と考えを自分で考えを書く方法を組み合わせる必要がある。
9.6	・指 B訪問授業 検討②	〇授業の視点及び振り返りで考えを広げる手立てについて ・考えを表現したり友達の考えを取り入れられるようにしたりする手立ての工夫を授業の視点に入れ、授業展開をしていく必要がある。
9.28	・授業実践 1年道徳科 主題名「親切はいいきもち」 【B:親切・思いやり】 授 林教諭	〇状況の理解や心情を捉えやすくするための動作化の有効性について ・中心発問を的確に設定するとともに、動作化を取り入れることにより、児童が登場人物の心情に共感しながら、考えをもつことができる。
9.30	・授業実践 6年道徳科 主題名「誠実に生きる」 【A:正直、誠実】 授 戸部教諭	〇考えを比較しながら交流させる手立ての有効性について ・児童の考えを共有・比較できる手立てを工夫することにより、児童が自分や友達の考えを確認しながら、より考えを深めていくことができる。
10.12	・指 B訪問授業 検討③	〇展開後半でめあてについて考える場における工夫について ・ワークシートに書かせるとともに、意図的に指名することにより、多様な考えを引き出すことが必要である。
10.22	・5年道徳科 主題名「温かな思い」 【B:親切・思いやり】 教材名「くずれ落ちたダンボール箱」 授 指導主事訪問B 関口教諭 (全体会) 	(授業の視点) 「本当の親切な行動とは、どんな行動だろうか」を考えるために、考えのちがいや変化に着目できるような活動を取り入れたことは有効であったか。 (成果) ・導入において、ロイロノートアンケートで結果を提示することによって、児童の問題意識を高めることができ、めあてにつなげることができた。 ・児童の多様な考えを引き出すために ICT の機能を効果的に使ったことで、児童が考えをもったり、友達の考えを共有したりすることができた。 ・振り返りの場面で、日常生活の具体的な場面を想像させることで、これからの自分の思いや願いを広く考えることができた。 (課題)

		・迷いや葛藤について、十分に考えさせられる中心発問にするとともに、考える時間を確保する必要がある。 ・考えの多様性、変化について、教師が柔軟かつ効果的に対応することが必要である。
10.25	・B 訪問のまとめ	○発問の吟味と ICT の活用について ・多様な考えを引き出すための発問の吟味と ICT の効果的な活用について工夫していく必要がある。
10.27	・授業実践 1 年道徳科 主題名「大切なあいさつ」 【B:礼儀】 授 登坂教諭	○状況を理解し考えるための動作化の有効性について ・日常の場面を動作化することで、実感をもった価値理解につなげることができる。
11.25	・授業実践 2 年道徳科 主題名「あたたかい心」 【C:親切・思いやり】 授 市川教諭	○振り返りにおけるまとめの型の有効性について ・決まった型を示してまとめるようにしていくことで、めあてに応じた適切なまとめができる。
11.29	・実践の課題の確認	
12.7	・授業実践 特支生活単元 単元名「話をよく聞こう」 授 篠原教諭	○実践意欲を高めるための役割演技の有効性について ・児童の実態に応じた具体的な場面を役割演技することで、学習したことを実践していこうとする意欲を高めることができる。
12.9	・授業実践 5 年社会科 単元名「情報を生かす産業」 授 宮内教諭	○課題を追求する場におけるペア交流の有効性について ・調べることを分担し交流させることで、意欲が高まるとともに、効率的に課題解決ができる。
12.16	・授業実践 4 年道徳科 主題名「正直はだれのため」 【A:正直・誠実】 授 加藤教諭	○心情の変化を捉えるための心情メーターの有効性について ・心情メーターを一覧にすることで考えの選択や比較がしやすくなり、変化も捉えやすくなる。
1.31	・研修経過の確認	
2.21	・研修のまとめ	
3.7	・次年度の研修について	

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5.14	情報教育	外部講師	・chromebook の使い方について
9.28	プログラミング教育	外部講師	・プログラミング教育についての講義・演習
12.15	特別支援教育研修	外部講師	・学校に役立つ心理療法について

職員一覧

No.	職名・担任等	氏名	No.	職名・担任等	氏名
1	校長	森下 和樹	12	なかよし2	篠原 恭代
2	教頭	七五三木 宏	13	養護教諭	松井 純子
3	教務主任	宮内 国大	14	事務主事	佐藤 佑香
4	1 年 1 組	林 佳子	15	非常勤(理科)	小野 修一
5	1 年 2 組	登坂 厚子	16	スクールカウンセラー	加藤 久雄
6	2 年 1 組	市川 有紀子	17	教育DX推進スタッフ	小林 真理子
7	3 年 1 組	松山 香織	18	JLT	笠原 八千代
8	4 年 1 組	加藤 大禅	19	個人児童生活学習ポスター	今井 孝史
9	5 年 1 組	関口 真琴	20	生活相談員	大竹 ゆかり
10	6 年 1 組	戸部 栄子	21	支援員	今井 由香
11	なかよし1	倉品 健	22	用務員	熊澤 正幸

利 南 東 小 学 校

所在地 〒378-0003 沼田市上久屋町2135番地
電話番号 0278-22-3006 FAX 22-0784
校長名 樋口 徹

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【基本目標】 社会の変化に主体的に対応できる豊かな心、高い知性、強い意志を備え、生き生きと自己表現でき、心身ともにたくましい実践力のある子どもを育成する。

- 【具体目標】 ○すすんで勉強する子(自ら考え進んで勉強する子)
○思いやりのある子(他人の気持ちになって考え、助け合う子)
○心身ともに健康な子(元気に明るく毎日を過ごせる子)
○ねばり強くやりぬく子(目標を持ってしっかりがんばれる子)

2 経営方針

(1) <目指す学校像> ◎「チームとなみ 気づき・考え・互いに伸びゆく学校」

- ①子どもが健康で明るく楽しく充実した学びをする学校 ②子どもも職員も認め合い高め合う学校
③家庭・地域から信頼される学校

(2) <目指す教師像>

- ①笑顔を絶やさず元気な教師 ②愛情・情熱・使命感・倫理観を持った教師
③力を合わせ、組織として問題解決する教師

3 本年度の重点施策

(1) 学力の向上

- ・高学年を中心とした「教科担当制」の導入と組織的な学力向上の推進
- ・「はばたくぐんまの指導プランⅡ」等とICT活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・授業でのめあての提示と振り返り、漢字計算コンテスト実施による基礎・基本の確実な定着

(2) 豊かな心の育成

- ・道徳の教科書と「ぐんまの道徳」の活用を通じた「考え議論する道徳」の実施
- ・「自己肯定感」や「自尊感情」の醸成を目指した全教育課程における指導の工夫と改善
- ・朝読書や家庭における読書、読み聞かせ、読書月間の充実化
- ・児童中心のいじめ防止活動や人権学習を通じた互いに相手を思いやる心情の育成

(3) 健康の保持増進と安全の確保

- ・体幹トレーニングの導入と運動することの楽しさを味わえる体育の授業づくりによる体力の向上
- ・登下校の安全確保のための自主防犯パトロール隊や下校ボランティア・「安全の家」との連携強化
- ・自己防衛意識醸成のための避難訓練や保護者協力による、感染症防止対策及びSNSルールの徹底

(4) 家庭・地域・小中連携

- ・家庭や地域への情報発信による相互理解と学校支援ボランティアやPTAと連携した体験学習の充実
- ・小中の情報交換(小中連携・一貫教育協議会)を通じた、教育活動等の連携・充実

(5) 職員の経営参画意識と職能の向上

- ・経営参画意識を高めるための校務分掌の10%工夫改善・削減
- ・「チームとなみ」の一員として個々の役割を果たし、全職員で問題解決にあたる職員組織の育成

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

自ら考え、共に学びを深められる児童の育成
～「見方・考え方」を働かせるための発問の工夫を通して～

児童生徒の実態との関わり

- ・基礎的・基本的な学習内容は身に付けていても、考えを分かりやすく記述・説明したり、問題解決に活用したりすることにつなげていない。
- ・各教科において児童は以前より「見方・考え方」を働かせて考え、めあてを達成できるようになってきてはいる。しかし、より「深い学び」を実現することが今後の課題である。

指導の在り方との関わり

- ・話し合い活動で考えを全体共有したあと、再考する場を設定し、学びを深めることが必要である。
- ・深い学びを実現するためには、各教科の「見方・考え方」を働かせ、学びを深める学習過程の在り方や主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善が必要である。
- ・「見方・考え方」を働かせるための発問の工夫に焦点をあてて、具体的に実践していく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】既習事項や根拠を基に自分の考えや思いをもち、相手の話をよく聞いて、考えの共通点や相違点(1～3年)に気付くことができる。

【高学年】既習事項や根拠を基に自分の考えや思いをもち、相手の考えのよさを取り入れて、考えを広げたり(4～6年)深めたりできる。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するために共通実践する手立て

- ・教材研究を充実させ、教科の特質、教科の「見方・考え方」、教材の系統、児童の実態などをしっかり把握する。
- ・各教科の「見方・考え方」を明らかにし、「見方・考え方」を働かせている「子供の学びの姿」を想定して授業を構成していく。
- ・考える場面で、「見方・考え方」を働かせるための発問の工夫を推進していく。
- ・教科指導にかかわる全職員が授業を公開し、研究授業に当たっては指導案検討会を重視し、全職員でねらいと振り返り、適用問題の吟味について話し合う。

3 研修計画・経過報告〈裏面〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・問題を解く上で児童のつまずきを予想し、主発問・補助発問を工夫することが、主体的に「見方・考え方」を働かせて問題解決に向かわせることに有効であることが分かった。
- ・既習事項を想起させたり、定義に戻って考えさせたりすることが、基礎・基本の徹底や課題解決の見通しをもたせることに有効であることが分かった。
- ・ワークシートの工夫、ICT機器の活用など、思考の手助けとなる教材や教具を効果的に活用することが、思考力を高めることに有効であることが分かった。

○課題

- ・学習課題に取り組む際、課題を解決するためにどこに着目したのか、どうしてそのように考えたのかについて児童から考えを引き出すためのより実態に即した発問の工夫が必要である。
- ・学級全体へ向けた主発問・補助発問だけでは、課題解決に向けて見通しがもてない児童がいる。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・「見方・考え方」を働かせる指導の工夫については、発問の工夫に焦点化し、「どの場面で、どのような主発問・補助発問をしていくのか」について、さらに研修を進めていく。
- ・見通しをもたせる指導の工夫については、発問の工夫と共に、教材・教具の工夫(視覚的理解を促す教材・ヒントカードなど)や個別の支援をしていく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会 ※ゴシック体は発問の工夫

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研修の視点(上段)〕・明らかになったこと(下段)〕
4.12	研修推進委員会 ・研修計画の検討	○研修主題・副主題・研修計画の原案作成 ・深い学びを実現するためには、児童が「見方・考え方」を働かせるための教師の発問の工夫が必要である。
4.26	・研修計画の検討	○研修主題・副主題、研修内容、目指す児童像について
6.14	・研修計画の確認、研究の内容と方法等について	○研修計画、研究の内容・方法等について ・指導案の形式の確認(校内研修一人一授業)
6.30	授1年算数 林さとみ教諭 「かたちあそび」 (低学年部会)	○色や大きさなど仲間分けの観点を広げすぎず、形に着目できるような発問をしたことは有効か。 ・ 立体図形の概形や特徴に着目するように発問をしたことで形の特徴に着目して箱を分類しその根拠を発表させることができた。
7. 8	授6年音楽 鈴木雅之教諭 「オーケストラの響きを味わいながらききましょう」 (高学年部会)	○楽器固有の特徴を視覚・聴覚ごとに捉えさせるために、指導内容に応じた発問をしたことは有効か。 ・ ICT機器を発問に即して活用したことで、思考力・判断力を向上させることができた。
7.12	・夏季休業中の研修の提案	○B訪問へ向けての共通理解
夏季休業	個人研修	○一人一授業の計画、教材研究、指導案作成
8.26	研修推進委員会	○2学期の研修計画について
8.27	授6年算数 吉野幸恵教諭 「拡大図と縮図」 (高学年部会)	○形が同じで大きさの違う写真を提示し、大きさは違うのに同じ形に見える理由を考えさせたことは有効か。 ・ 角度に着目してその理由を考えさせる発問をしたことで、拡大図と縮図の意味や性質について考えを深めることができた。
8.30	・2学期の研修計画	○2学期の研修計画、指導案検討・授業検討会のもち方について
9.13	指B訪問指導案検討①	○B訪問指導案の授業の視点や本時の展開について検討
9.16	授6年理科 高山欽弥教諭 「月の形と太陽」 (高学年部会)	○各自で考察する場面で、動画を見た結果と実際の月の位置や形と結び付けて考えさせる発問をしたことは有効か。 ・ 「月の変わるしくみ」の動画を見せ動画に即した発問をしたことで実際の月の位置や形を結び付けて考えさせることができた。
9.17	授3年算数 青木和成教諭 「大きい数のかけ算のしかたを考えよう」 (中学年部会)	○2位数×1位数のかけ算の解き方の基礎を見出すために、各学習過程に即した発問をしたことは、思考を促すのに有効か。 ・ 考え方の共通点はどこか発問をしたことで、位ごとに分けて計算すれば九九を使って答えを求められることを理解できた。
9.21	授6年算数 佐伯悠教諭 「円の面積の求め方を考えよう」 (高学年部会)	○集団解決の場面で、それぞれの考え方のよさについて考えさせるための発問をしたことは、問題解決するのに有効か。 ・ 個々の考えを尊重した発問をしたことで、考え方のよさや共通点に気付かせることができた。
9.22	授わかば4年自立活動 片野佑美教諭 「助けを求めよう」	○コミュニケーション活動で、「たすけ合い体感ゲーム」を取り入れ助言を工夫したことは、伝え合う意欲を高めるのに有効か。 ・ どのように話すと人に伝わるか考えさせる発問をしたことで、話をするときや聞くときの目線の大切さに気付かせることができた。
9.29	授2年算数 松井みづ穂教諭 「三角形と四角形」 (低学年部会)	○図形を分別する活動で、辺や頂点に着目できるような発問をしたことは図形を構成する要素に着目して分別させるのに有効か。 ・ 児童の発言を基に補助発問をしたことで、図形の構成要素(辺や頂点)に着目して分別させることができた。
10.14	授1年算数 潮見厚子教諭 「たしざん」 (低学年部会)	○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法を考え出すために発問を工夫したことは有効か。 ・ 「10といくつ」にすることを基にする考え方を共有する発問をした

		ことで、被加数を分けて足す方法を考え出すことができた。
10.19	授わかば1・2・6年自立活動 林路代教諭 「助けを求めよう」	○「たすけ合い体感ゲーム」で、自分の気持ちを伝え合うよう助言したことは場面にふさわしい表現方法を身に付けるのに有効か。 ・話し方や態度によって伝わり方が変わることを考えさせる発問をしたことで、自分の気持ちを上手に相手に伝えることができた。
10.22	授2年算数 小野露葉教諭 「たし算とひき算のひっ算」 (低学年部会)	○大きい数の筆算の仕方を考える際に、発問を工夫し位取り表・数字カードを使って考えさせたことは有効か。 ・今までの筆算とどこが違うか考えさせる発問をしたことで、大きい数でも既習の筆算が使えることに気付かせることができた。
10.25	授4年算数 菊池詩月教諭 「面積のはかり方と表し方」 ・B訪問プレ授業 ・授業研究会全体会	○集団解決の場面において、それぞれの考え方のよさについて考えさせるための発問を工夫したことは有効か。 ・個々の考えを尊重しながら考えを深める発問をしたことで、複合図形の面積の求め方を公式を使って考えさせることができた。
10.26	授通級自立活動 小林庸子教諭 「よく見よう、よく聞こう、よく考えよう」	○課題の目的を知らせたり一課題の時間を短く設定したりしたことは、課題に主体的に取り組む体験を積ませるために有効か。 ・それぞれの課題の意図を考えさせるための発問をしたことで、課題に主体的に取り組ませることができた。
10.29	授わかば1・4・6年自立活動 中塚詩織教諭 「助けを求めよう」	○「たすけ合い体感ゲーム」で気持ちを伝え合うポイントを確認合ったことは相手を意識して伝え合う意欲を高めるのに有効か。 ・言葉のやりとりを考えさせる発問をしたことで、相手が返した言葉に答えることを理解し、話そうとする意識を高めることができた。
11. 1	指B訪問指導案検討②	○B訪問指導案の授業の視点や本時の展開の確認・検討
11. 4	授3年算数 阿左見成美教諭 「数の表し方やしくみを調べよう」 (中学年部会)	○集団解決の場で、 $0.3 + 0.2$ の計算の仕方をそれぞれの共通の考えに着目できるような発問をしたことは有効か。 ・考え方の共通点に着目するように発問をしたことで、 0.1 を基にして $3 + 2$ の計算で求めることに気付かせることができた。
11. 5	授3年算数 大関一久教諭 「分数のたし算とひき算」 (高学年部会)	○約分する必要がある問題を例題として使い、発問を工夫したことは異分母の帯分数の加減計算の仕方を理解する上で有効か。 ・約分する必要がある問題を使い、個々の考えのよさを確認し合える発問をしたことで、計算の仕方を理解させることができた。
11.19	○指導主事訪問B 授4年算数 尾形あや教諭 「面積のはかり方と表し方」	○個々の考え方の共通点について考えさせる発問をしたことは数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決するのに有効か。 ・考えの共通点に気付かせる発問をしたことで、長方形の面積を求める公式を使い面積の求め方を考えさせることができた。
12.23	・今年度の研修の成果と課題について	
1.17	・今年度の研修の成果と課題の確認、次年度の方向等について	
3. 7	・次年度の研修主題・内容について	

(職員一覧)

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	樋口 徹	教諭	菊池 詩月	教諭	武井 州久
教頭	大塚 純子	教諭	大関 一久	養護教諭	今橋 三恵
教諭	高山 欽弥	教諭	吉野 幸恵	事務主事	小林 康子
教諭	潮見 厚子	教諭	佐伯 悠	教育DX	佐藤 美香
教諭	林 さとみ	教諭	中塚 詩織	生活相談員	井上 美里
教諭	小野 露葉	教諭	林 路代	支援員	吉野 久子
教諭	松井みづ穂	教諭	片野 佑美	支援員	丸田 裕子
教諭	阿左見成美	教諭	鈴木 雅之	用務員	金井 雅之
教諭	青木 和成	教諭	小林 庸子		
教諭	尾形 あや	教諭	下田 洋一		

池田小学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9320 FAX 0278-23-9369
校長名 渡辺 元子

I 学校の経営

1 学校教育目標

- 【基本目標】 自ら考え 正しく判断し 行動できる 子どもの育成
【具体目標】 (知) 自分から進んで学習できる子ども
(徳) 思いやりのある子ども
(体) 体を鍛える子ども

2 経営方針

め ざ す 姿		
【めざす学校像】 ○児童が楽しいと思う学校 ○保護者が信頼する学校 ○教職員にとって魅力ある学校	【めざす児童像】 い いつも笑顔 け 元気なあいさつ だ 誰にもやさしい 池田の子	【めざす教師像】 ○子どものよさを認め伸ばし、 授業改善に努め、チームの 一員として尽力する教師

3 本年度の重点施策

- (1) 基礎・基本を定着させ、身に付けた知識・技能を生かして思考力・判断力・表現力の育成を図る。
○授業の目標（めあて・ねらい）提示や目標に沿った振り返りで、何を学んだのか自覚させる。
○国語科、算数科を中心とした次の学びにつなげる補習や家庭学習などの振り返り学習を徹底する。
○体験的な学習活動を取り入れ、自ら考え・判断し表現する授業の工夫や単元構想に取り組む。
- (2) 豊かな心の育成に努める。
○全校体制で「考え・議論する道徳」を推進する。
○「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の機能を生かした指導や朝読書、朝の読み聞かせの充実や読書カードの活用を通して、読書に対する意欲付けを図る。
- (3) 健康・体力の向上を図る。
○心と体の健康づくりに向けて個に応じた指導を徹底する。
○児童目線での健康・安全指導に努め、地域・保護者と連携して自尊感情や危険予測・回避能力を高める。
- (4) 家庭・地域と連携し学校教育の充実を図る。
○きめ細かな情報発信に努め、各種訓練を通して危機管理を徹底し安全の向上を図る。
○基本的な生活習慣の育成や規範意識の高揚について、家庭と具体的な連携を図る。
- (5) 小中の連携を進め、教育効果を高める。
○「池田小中の学習と生活のきまり」の中から重点項目を絞り、小中同一歩調で指導を進める。
- (6) 教師の指導力の向上、学校組織の活性化を図る。
○教職員の専門性を生かした分掌運営を行い、一人一人がリーダーシップを発揮し指導体制の活性化を図る。
○育成指針に合わせた的確な目標設定と人事評価制度を生かして、職能成長や組織の活性化を図る。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自ら学ぼうとする意欲をもち、互いに考えを深める児童の育成
副主題 ～各教科におけるICTを活用した授業実践を通して～

児童の実態等との関わり

- ・教師の観察から、全体の前でしっかりと意見を言えたり、考えを深められたりする児童が少ない。
- ・コロナウイルス感染症対策のため、授業で従来行っていた児童の班による話し合いなどの交流活動の機会が少なくなっている。

指導の在り方との関わり

- ・昨年度の臨時休校で授業時数が少なくなり、知識や技能の定着に重点を置いたため、互いに考えを深める時間が取れなかった。
- ・今年度より、児童一人一台 Chromebook が配付され、授業での活用が必須となったため、ICTを有効に活用し、話し合い活動を増やすなど、互いに考えを深めていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具現化した目指す児童像

自分の思いや考えをもち友だちとの交流を通して、お互いに理解し合い認め合いながら自分の考えを深めようとする児童

【低学年】自分の思いや考えをもち、友だちに伝え、友だちの考えを分かろうとする子

【中学年】自分の思いや考えを表現し、友だちの思いや考えの相違点や共通点に気づき考えを広げようとする子

【高学年】自分の思いや考えを表現し、複数の考えを比較したり関連付けたりして考えを深めようとする子

(2) 具現化した目指す児童像を達成するための共通実践するための手立て

○各教科でICTを活用した授業づくり

- ・考えを深める場面や振り返りの場面でICTを効果的に使った授業づくりを行うために、授業のいろいろな場面でICTを使い実践を積み上げながら、目指す児童像に近づける。

3 研修計画・経過報告<裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ICTを活用することで、これまで発表することに消極的だった児童の意見も取りあげることができ、学ぼうとする意欲や互いに考えを深めるために有効であった。

○課題

- ・発達段階における教科の特性に合った活用法、ねらいに沿った活用法をより探る必要がある。




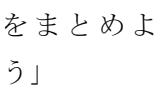
○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童の自己有用感を高めつつ、引き続きいろいろな教科で活用方法を実践していく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討

授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.12	・ICT研修(全体会①)	○Chromebookの活用方法(池田中と合同開催) ・Chromebookでできること、Meetについて
4.15	・研修計画の検討 (研修推進委員会)	○昨年度の研修内容の共通理解 ○本年度の研修主題、副主題、研修内容、組織について検討 ○「学習のやくそく」、生活記録等の共通理解
4.26	・今年度の研修の方向性の確認(全体会②)	○研修テーマ、研修の方向性についての確認(ICTの活用場面について) ・研修テーマ、研修の方向性についての共通理解 【ICTを集団解決(考えを深める)の場面を中心に活用する。】 ・1人1授業実施の確認と代表授業の決定
5.31	6年理科 「動物の体の働き」 	授 小野教諭(全体会③) ○理科におけるICT活用の有効性について ・電子黒板のノート機能を活用したことで、全体での意見共有がしやすくなった。 ・デジタル教科書を用い「気体検知管の使い方」の映像を見せたことにより、スムーズに実験できた班が多かった。
6.21	・ICT研修 ・A訪問準備	○Chromebook(ロイロノート)の使い方 ・ロイロノートでの写真撮影、テキスト作成、提出の仕方、発表の仕方など授業での活用の仕方
6.25	指導主事訪問A	○管理職による説明 ○指導主事による授業参観
8.24	2年国語 「詩を楽しもう 雨の歌」 	指 宮崎教諭(全体会④) ○2年「詩を楽しもう 雨の歌」授業構想、本時について ・シンキングツールを使って児童が考えを書き込み、全体で共有して考えを深めていく。
8.30	 授 // (全体会⑤) ・NRT結果考察	○国語におけるICT活用の有効性について(シンキングツール) ・ICTを使って考えを共有する場面で、よいと思った考えを自分のシートに貼り付けたことで、自分の考えを深めることができた。(ノートに書かせることも一つの方法である。) ・低学年からシンキングツールを使って考えを整理することに慣れ親しんでおくと、高学年になってより幅広く使えるようになると思われる。 ○結果考察による児童の実態把握と指導改善
9.27	3年国語 「はんで意見をまとめよう」 	指 井田教諭(全体会⑥) ○3年「はんで意見をまとめよう」授業構想、本時について ・ロイロノートを使って児童が考えをカードに書き分類する。
10.5	をまとめよう」 プレ授 // (全体会⑦)	○ロイロノートを使ってグループで考えを分類する方法の有効性について ・話合いの様子が画面を見て分かるので、付箋を使うよりはよいのではないか。

10.11		指(全体会⑧)	○プレ授業を受けて最終検討
10.18		授指導主事訪問B	○国語における ICT 活用の有効性について (ロイロノートを活用し、カードを使ってグループで話し合い) ・付箋よりも使いやすく、意見を一つに絞るのに有効であった。 ・話し合いのポイントをもっと意識させると、より活発に話し合いを進めることができたのではないかと。
10.25	5年道徳 「相手の立場も大切に」	指 鈴木教諭 (全体会⑨)	○5年「相手の立場も大切に」授業構想、本時について ・主発問でロイロノートのカードに自分の考えを書き、全体で考えを深めていく。
11.8	1年算数 「ひきざん」 	授 森下教諭 (低学年部会)	○算数における ICT 活用の有効性について (ロイロノートを使いプリントに書いた考え方を写真に撮り全体で共有する。) ・考え方を共有したことで、自分の考えに自信をもてたり間違いに気付いたりすることができた。
11.29	5年道徳 「相手の立場も大切に」 	授 鈴木教諭 (全体会⑩)	○道徳における ICT 活用の有効性について (ロイロノートを活用し、カードを使ってグループ全体で考えを深める。) ・全員の考えが一度に見られて、考えを把握しやすかった。 ・普段自分の思いを伝えられない児童も、カードで自分の思いを伝えられた。 ・児童同士でカードを見合う時間をより確保し、話し合いを行うとねらいに迫ることができたのではないかと。
	・沼田市教育水準報告 (沼田小)		○3年国語「すがたをかえる大豆」(井田教諭参加) 5年算数「四角形と三角形の面積の求め方を考えよう」(研修主任参加)
12.16	2組書写 「書き初め」	授 桑原教諭 (低学年部会)	○特支における ICT 活用の有効性について (動画で課題理解) ・やることがよく理解でき、意欲的に取り組めた。
1.24	・成果と課題 (全体会⑪)		○今年度の成果と課題、指導のあり方と児童の変容のまとめ
2.21	・次年度の研修内容、CRT 検査結果分析 (全体会⑫)		○来年度の研修主題・内容・方法についての検討 ○ CRT 検査結果分析による反省と課題設定
3.22	・次年度の研修 (全体会⑬)		○主題、副主題、来年度の方向性について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	渡 辺 元 子	教 諭	小 野 修 一
教 頭	生 形 学	教 諭	宮 崎 真
教 諭	桑 原 昭 夫	教 諭	吉 野 みどり
教 諭	鈴 木 幸 子	養護教諭	角 田 美由紀
教 諭	星 野 竹 志	事務主事	三 俣 沙 月
教 諭	佐々木 裕 也	生活相談員	金 子 尚 美
教 諭	森 下 好 美	特別教育支援員	堤 浩 美
教 諭	竹 内 正	教育推進 DX	佐 藤 由佳理
教 諭	井 田 さやか	用 務 員	松 井 敦 夫
教 諭	安 中 美 緒		

薄 根 小 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町32番地
 電話番号 0278-22-2891 FAX 22-0785
 校長名 星野 耕史

I 学校の経営

1 学校の教育目標

「進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」

- 進んで学ぶ子（自主、創造、根気）
- 思いやりのある子（正義感、奉仕、博愛）
- 体をきたえる子（健康、安全、体力）

2 経営方針

	【目指す学校像】	【目指す児童像】	【目指す教師像】
柱	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が楽しいと思う学校 ※わかった喜び ○保護者が信頼する学校 ※健康・安全・危機管理 ○教職員に魅力ある学校 	<ul style="list-style-type: none"> ○うれしい言葉「ありがとう」 ○すてきな笑顔で毎日あいさつ ○粘り強く努力する薄根っ子 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童のよさを見逃さない教師 ○温かい笑顔の教師 ○チーム力を意識する教師 ○授業改善に努力する教師
基礎	児童を社会人へと鍛える場	規律ある生活	毅然とした指導
土台	一人一人の児童を大切にす愛情を持った指導（教師としての使命）		

3 本年度の重点施策

(1) 「進んで学ぶ子」の育成（学校評価：評価対象Ⅱ「確かな学力」）

- 積極的な授業改善と補充学習の工夫
- 家庭と連携した家庭学習習慣の確立と体験活動を活用した学習意欲の高揚
- 特別支援教育の充実

(2) 「思いやりのある子」の育成（学校評価：評価対象Ⅲ「豊かな心」）

- 全教育活動における道徳教育の推進と特別活動の充実
- 積極的な生徒指導
- いじめ基本防止方針を踏まえた適切・迅速な対応と児童主体の「いじめ防止活動」の展開

(3) 「体をきたえる子」の育成（学校評価：評価対象Ⅳ「健康・体力」）

- 「ぐんまの子ども体力向上推進事業」を受けた運動の楽しさをや喜びを味わえる組織的、計画的な体力づくりの推進（「体力向上プランとの関連」）
- 学校保健委員会の活動を核とした健康教育の推進（特に、手洗い・マスクの着用・3密避ける行動と健康状態の自覚を促す感染症予防の推進）
- 安全教育の充実による危機回避能力の育成（学校評価：評価対象Ⅴ「安全確保・施設設備」）

(4) 地域と連携した信頼される学校づくり（学校評価：評価対象Ⅰ「保護者との連携」）

- 地域を愛し、大切にす心の育成
- 地域の自然、歴史、文化・伝統等を活用したり、理解したりする教育の推進
- 地域との協力体制づくり

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 進んで学習や運動に取り組む児童の育成
副主題 ～体育科や各教科における「わかった」「できた」が実感できる授業を通して～

児童の実態との関わり

【体育科】

- ・積極的に運動しよう（体を動かそう）とする児童が多い。
- ・学習活動に向上心や意欲をもって取り組めない児童がいる。
- ・話し合い活動では、特に高学年において、一部の児童の意見に流されてしまう様子が見られる。

【各教科】

- ・話をよく聞いているが、具体的にイメージして聞いている児童が少ない。
- ・「できるようにしよう」というモチベーションが低い。
- ・自分で考えて実行する力が弱い。

【共通】

- ・「わかった」ことを「できた」に繋げられない。

指導の在り方との関わり

【体育科】

- ・誰でも進んで取り組めるように場の工夫やスモールステップを取り入れ、「わかった」「できた」「できそう」等、児童の成功体験の機会を増やし、運動の楽しさを実感できるようにする。
- ・学習過程を工夫し、運動量の確保に努める。

【共通】

- ・意欲をもち、進んで取り組めるように課題設定を工夫する。
- ・振り返りを通して児童に達成感や満足感を感じさせるとともに、課題点に気づかせ、次時に解決を図れるような評価を続ける。
- ・自分の考えをもたせるための手立てを講じる。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 進んで学習に取り組み、楽しく学習や運動ができる。

【中学年】 できるまでの見通しをもち、進んで友達と伝え合ったり、協力し合ったりしながら楽しく学習や運動ができる。

【高学年】 目標や課題解決に向けて、主体的に取り組み、友達同士で教え合ったり、協力し合ったりしながら楽しく学習や運動ができる。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・スモールステップで学習及び運動のポイントやコツを習得させたり、ICT 機器を活用し、視覚的に捉えやすくするなど見通しをもたせたりして、活動意欲をもたせるようにする。
- ・自分の考えをもちやすくしたり、根拠をもった話し合い活動にしたりするために、学習カードやヒントカード、ICT 機器などを活用する。
- ・学習活動を通して自分の変容や新たな課題に気付けるように、めあてに沿った振り返りができるようにする。

3 研修計画・経過報告（裏面に記載）

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

【共通】

- ・ICT 機器を活用することで、視覚的に捉えやすくしたり、自他を比較する話し合いにつなげたりすることができた。

【体育】

- ・学習計画の立案や指導方法について話し合いができるなど体育専科との協働体制が定着した。

【各教科】

- ・自力解決の場で自分の意見を出しやすくするための手立て（スモールステップ・学習カードやICT 機器等）を活用したことで児童が自信をもって自分の考えをもてるようになった。

○課題

- ・自分の考えや気付いたことを適切に表現でき、考えをが深まるような学習過程の工夫が必要である。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・根拠をもつ話し合い活動や考えの共有ができるように「わかった」「できた」を実感したり、ICT を活用したりする学習過程を工夫していく。

3 研修計画・経過報告 指 ……指導案検討 授 ……研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 5	・今年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○今年度の研修の方向や組織について共通理解を図る。 ・今年度の方向性や組織について確認された。
4.12	・今年度の主題・副主題や研修内容についての検討	○今年度の基幹となる研修の方向や組織について共通理解を図る。 ・「体育」「各教科」の2部会に分かれ、共通の手立てをもとに実践していくことを確認した。
5.17	・実践内容や研究授業について	○児童の実態や課題、共通の手立て、研究授業の計画について検討。 ・児童の実態や課題、授業実践の方向性を明らかにできた。 ○はばプラⅡ ICT活用バージョンについて確認する。
6. 7	・ICT機器の活用について	○タブレットやドリルパークの活用について情報交換をする。 ・教科ごとに実践報告を行い、活用方法を共有できた。
7. 5	・オンライン授業に備えて	○低中高のブロックごとにオンライン授業の内容の共有を図る。 ・Meet やロイロを使った学習内容について検討できた。
8.30	・指 大関教諭 (各教科) 高宮教諭 (体育)	○ブロック代表の授業について部会ごとに検討する。 ・授業の流れ、視点や手立てについて検討された。
8.31	・授 5年算数 小倉教諭 (各教科部会・一人一授業)	○四角形の内角の和を求める方法を考える際にワークシートを準備し書かせたことは、考えを比較・検討するために有効であったか。 ・キーワードを書いたカードが、見通したり考えたりする場面で低位の児童の支援に有効であった。
9. 2	・授 5年算数 浅見教諭 (各教科部会・学年代表)	○四角形の内角の和を求める方法を考える際にワークシートを準備し書かせたことは、考えを比較・検討するために有効であったか。 ・自力解決→全体での比較・検討→まとめ→適用問題→振り返りの時間配分の確認ができた。
9.13	・指 小熊教諭 (各教科) (B 訪問/全体)	○授業の方向性や視点、ねらい、評価の整合性について検討する。 ・意見の交流や考えを比較・検討する方法について検討した。
10. 1	・授 5年外国語 大関教諭 (各教科部会代表授業)	○単元のゴールまでの見通しを立て、英語表現を定着させるために、体を動かしたり、タブレット上に配布した地図を活用したことは有効だったか。 ・コマンドゲーム (わかった) →教科書→ロイロ (できた) の流れが有効。
10. 4	・授 研究授業・授業研究会 ・指 小熊教諭 (各教科) (B 訪問/全体)	○本時の展開について検討した。 ・自分の考えをもたせるための手立てや集団解決の場での ICT 機器の活用について共通理解を図った。
10.18	・授 4年算数 大塚教諭 (各教科部会・一人一授業)	○図から式を考えさせたり、式から図を考えさせたりしたことは有効だったか。 ・自分の考えを高めたり、広げたりするためにロイロを活用したことやペアや全体での交流の場が有効であった。
10.20	・指導主事訪問 B 4年算数 小熊教諭	○図から式を考えさせたり、式から図を考えさせたりしたことは有効だったか。 ・ICT 機器の「送る」機能を使い、図だけを送らせたことは、図の発表、式の発表、式の説明、適用問題の解答等、発表する児童が多くなり、児童自ら学ぼうとする活気のある授業となった。
10/20	・授 1年体育 山崎教諭 (体育部会・一人一授業)	○ゲーム1の振り返りでボールを投げる時のポイントの認識や良い動きの紹介をしたことは、児童がよい攻め方を見つける上で有効だったか。 ・投げ方やダンボールに当てる時の攻め方を全体で確認することでゲーム2の攻め方の工夫につなげることができた。
10./26	・授 1年体育 見城教諭 (体育部会・学年代表)	○ゲーム1の振り返りでボールを投げる時のポイントの認識や良い動きの紹介をしたことは、児童がよい攻め方を見つける上で有効だったか。 ・投げ方のコツについて児童の発言を取り上げ、全体で確認したことが、メインゲーム2の攻め方の工夫につながった。

11.1	・授 2年体育 石原教諭 (体育部会・一人一授業)	○作戦盤を活用したことは、チームで話し合い作戦を立てる上で有効だったか。 ・作戦盤を活用したことで攻めの作戦、守りの作戦の両方について活発な意見交流ができた。
11.5	・授 2年体育 高宮教諭 (体育部会代表授業)	○ルール工夫や作戦盤を活用したことは、チームで話し合い作戦を立てる上で有効だったか。 ・攻めも守りも得点につながるというルールにより、攻めの作戦、守りの作戦の両方について考えることができた。
11.8	・授 授業研究会(高宮教諭) ・指 吉澤・菅原教諭 (体力向上発表/全体)	○授業の振り返りと授業の方向性や視点について検討する ・成果と課題について確認した。 ・本時の展開について共通理解した。
11.15	・授 3年算数 星野教諭 (各教科部会・一人一授業)	○数直線や説明の文から式を考えたり、式から説明を考えたりしたことは有効だったか。 ・考え方に名前をつけて既習事項を生かしたり、まなボードを使ったりしたことは有効だった。
11.17	・授 3年算数 中澤教諭 (各教科部会・学年代表)	○数直線や説明の文から式を考えたり、式から説明を考えたりしたことは有効だったか。 ・数直線等の説明をしたりどの数直線等とどの式が合うか説明できた。
11.22	・体力向上発表会に向けて	○当日の役割分担について
11.26	・授 吉澤・菅原教諭 (体力向上発表/全体)	○タブレットを活用し、チームで守備のポイントを考える活動を取り入れたことは、相手の進塁を防ぐための活発な話し合いをする上で有効だったか。 ・タブレット上での話し合いが協力してできていた。チームで画面を共有し交流しあえた。
12.13	・研修の成果と課題	○今年度の研修の成果と課題について確認する。 ・成果と今後の課題について共通理解を図ることができた。
1.24	・研修のまとめ	○今年度の研修のあしあとを振り返る。学習評価の解説動画の視聴(紹介)。 ・1年の研修を振り返るとともに、個々の実践についてまとめた。
2.21	・来年度研修について	○来年度の研修の方向性について確認する。 ・来年度の研修の方向性について共通理解を図ることができた。

資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.12	特別支援に関する研修	羽鳥久美子教諭	・吃音について
4.15	タブレット研修①	外部講師	・Chromeブックについて
5.6	タブレット研修②	外部講師	・ロイロノートの使い方について
10.22	道徳授業に関する研修	星野 裕平教諭	・コロナ禍における意見交流のしかた(付箋紙を使った交流)

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名
校長	星野 耕史	教諭	小佐熊 瑞江
教頭	松原 孝志	教諭	佐藤 有紗
教諭	星野 裕平	教諭	山崎 舞乃
教諭	林 圭子	教諭	中澤 朋美
教諭	阿部 政志	教諭	石原 偉子
教諭	星野 修一	教諭	吉澤 早紀
教諭	見城 由香	教諭	梅澤 牧人
教諭	羽鳥 久美子	養護教諭	鶴淵 ますみ
教諭	小倉 洋子	補佐事務長	小野 千代子
教諭	菅原 裕子	支援員	星野 律子
教諭	青木 三重子	支援員	上野 優子
教諭	浅見 敏子	支援員	阿部 美緒子
教諭	大関 久美子	生活相談員	五十嵐 千代美
教諭	高宮 昭子	教育DX	佐藤 由佳理
教諭	大塚 あゆみ	用務員	星野 海斗

川 田 小 学 校

所在地 〒378-0024 沼田市下川田町540番地
電話番号 0278-22-3056 FAX 0278-22-0786
校長名 内藤 麗子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) 基本目標・・・健康で豊かな人間性と生きる力をそなえた児童を育成する。
- (2) 具体目標・・・①かしこい子（学ぶ意欲をもち、しっかり勉強する子）
②やさしい子（思いやりがあり、友達と協力できる子）
③たくましい子（明るく、最後まで頑張る子）

2 経営方針

(1) 学校経営目標

◎学校評価の効果的活用を通して教育課題を組織的・継続的に改善し、子供たちの成長のために教職員が一丸となってよりよい教育活動を行う。

(2) 目指す学校像

- ①児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業改善を推進する学校
- ②児童一人一人のよさを認め、個性を生かし伸ばす学校
- ③児童の健康を守り、安全・安心な学校生活を確保する学校
- ④教職員が心身ともに健康で、よりよい教育に資するための業務改善を推進する学校
- ⑤家庭・地域とともに、温かく児童を育てる学校

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・報告、連絡、相談を徹底し、教職員の縦と横の連携を密にしながら学校組織の活性化を図る。
- ・「群馬県教員育成指標」を基にキャリア段階に応じた助言を計画的に行い、職能成長を図る。

(2) 確かな学力の育成 【サマースクール沼田】

- ・授業において「めあて・見通し・まとめ・振り返り」を確実に実施し、自ら学ぶ力を育てる。
- ・学習規律を定着させて、学級全体の学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組ませる。
- ・指導のねらいを踏まえて一人一台端末を活用し、身に付けさせたい資質・能力を育成する。
- ・振り返り学習や家庭学習に計画的に取り組ませ、基礎的・基本的な学習内容を定着させる。

(3) 豊かな心の育成 【家族で本を読みましょう】【沼田市SNSルール】【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・教職員が、それぞれの立場で児童理解を深め、連携しながら個々の成長や集団の発展を促す。
- ・学校行事や異学年交流（川小カップ等）において児童が活躍する場面を設定し、自己有用感を高めるとともに、自他のよさを認め合う人間関係を形成する。
- ・特別の教科道徳の充実に向けて、児童がねらいとする道徳的価値の理解を基に、多面的・多角的に考えることを視点として授業を工夫・改善する。
- ・キャリアパスポートを活用して、児童に自らの成長に気付かせたり、将来を展望させたりする。
- ・朝読書や読み聞かせ、親子読書を通して様々な本に親しませ、豊かな感性を育成する。
- ・児童の発達段階に応じて情報モラルを身に付けさせ、ICTを適切に活用できるようにする。
- ・明確なねらいのもとに、地域の人・もの・ことを取り入れた学習や体験活動を充実させる。

(4) 健やかな体の育成 【セイフティ沼田】【児童生徒の命を守り、育てる教育】

- ・新型コロナウイルス感染症予防として、「新しい生活様式」を踏まえた教育活動を継続する。
- ・生活リズムチェックカードを活用し、家庭と連携しながら健康的な生活習慣を確立する。
- ・教科体育や川小カップにおいて、楽しく運動しながら運動量を確保するとともに、多様な動きを身に付けさせる。
- ・避難訓練の実効性を高め、児童の危機回避能力と、教職員の危機管理体制を向上させる。

(5) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通理解する。
- ・保護者との情報共有や関係機関との連携に努め、支援の効果を高める。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的に学習に取り組む児童の育成
副主題 ～算数科を中心としたICTの効果的な活用を通して～

児童の実態の関わり

- ・授業に真面目に取り組む児童が多いが、主体的に学ぶことに課題がある。
- ・各種の学力調査等から、基礎基本の定着に差が見られる。
- ・式や答えの発表はできるが、自分の考えを分かりやすく説明できる児童は少ない。

指導の在り方

- ・児童にとって解決の必要感のあるめあてを設定するとともに、数学的活動を工夫し、考える楽しさや新たな知識・技能を習得する喜びを実感させる必要がある。
- ・ねらいを吟味し、「児童に考えさせること」を明確にするとともに、意図的・計画的に学習内容を振り返らせる必要がある。
- ・数学的な表現を用いて、解決方法を簡潔・明確・的確に表現させる指導を工夫する必要がある。

2 研修の内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 数学的活動の楽しさに気付き進んで学習に取り組む子
【中学年】 数学的活動の楽しさやよさに気付き進んで学習に取り組む子
【高学年】 数学的活動の楽しさやよさに気付き進んで学習に取り組む学びを深める子

(2) 具体化した目指す児童像を設定するための共通実践手立て

- ・児童の主体性を養うために、問題解決的な学習における各過程の指導を工夫する。
- ・児童の思考を深めるためにICTを有効活用する。

3 研修計画・経過報告〈次ページ〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・注目すべき点に児童の意識を集中させるうえで、大型モニタを活用することは効果的であることが明らかになった。
- ・児童の解答などを全体で共有する場面において、ICTの活用（大型モニタとロイロノートの組み合わせ）は有効であることが明らかになった。
- ・毎週金曜日の放課後に「ミニ研修」を実施したことにより、ICT端末の基本的な操作の再確認やロイロノートの活用の仕方を実践形式で学び合うことができ、個々の職員の指導力が向上した。
- ・6月のアンケートでは、ICT端末を授業で活用することは難しいと感じる児童が多かったが、毎日の授業や朝学習で使うことで、12月のアンケートでは活用できる児童の割合が増えた。

○課題

- ・一人一授業の実践において、自力解決の時間を長く取り過ぎてしまい、集団解決や、まとめ・振り返りの時間が短くなってしまうことが課題として明らかになった。45分間をしっかりと見通した計画を練り上げる必要がある。
- ・ICTでの画像は残しておくことができない場合が多く、確かな知識や技能の定着に影響を与える可能性がある。これまで本校で進めてきた板書の構造化にICTを加えるベストミックスを各授業において検討していく必要がある。
- ・教師と児童ともにICT端末の活用技能を高めていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・集団解決、まとめ・振り返りの時間を十分に確保できる授業を計画し、短時間で自力解決を行うための見通しのもとせ方や、ヒントの出し方を検討していく。
- ・板書とICT活用の効果的な組み合わせ方について、引き続き、授業実践の中で検証していく。
- ・児童がスムーズにICT端末を扱えるよう、授業や朝学習の時間等を使って慣れさせていき、教師は、校内研修やミニ研修で活用の仕方を学び合いながら、指導力を高めていく。

3 研修計画・経過報告

指は指導案検討 授は研究授業・授業検討会

月日	研修計画 [内容]		研修報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4.19	・本年度の研修について(1)		○研修主題・内容・方法について ・全職員の共通理解の下で、交流活動や ICT 端末を使った授業実践を行い、成果と課題を積み重ねていくことを確認した。
4.26	・本年度の研修について(2)		○児童の実態や課題の原因の分析 ・昨年度の成果と課題を踏まえ、児童の実態と課題を分析し、今年度の共通実践の手立て等を明確にした。
5.24	指指導主事訪問 A 指導案について		○指導案の形式について ・児童の主体性を養うために、問題解決的な学習における各過程を工夫し、指導案に反映させていくことを確認した。
6.9	・指導主事訪問 A (未実施)		
6.14	・chromebook 教員向け研修		○chromebook の基本的な扱い方及び classroom、meet、jamboard の使い方 ・まずは、教員一人一人が実際に使うことで端末の扱いに慣れていく必要があることを再確認した。
6.28	・研修計画について		○一人一授業の進め方の確認 ・児童の実態を把握し、授業の各過程のいずれかの箇所で ICT 端末を活用した授業を計画していくことを確認した。
7.16	5年算数	模擬授業 授阿部教諭	○ICT 端末の使った授業の計画について ・ICT 端末は、導入、自力解決、集団解決、まとめ、振り返りのどの場面でも扱うことができるが、使う場面を精選することが必要であることを確認した。
7.28	・GIGA スクールにおける情報活用能力の育成について 県総合教育センター「ICT 活用教育サポート」の動画視聴		○ICT 端末を使った情報活用能力の育成について ・ICT 端末は、特別な場合に使うのではなく、汎用的・日常的に扱えるようになることが重要であるため、今後はより多くの活動の中で取り入れていく必要があることを再確認した。
8.30	指指導主事訪問 B 指導案検討		○B 訪問指導案の検討 ・単元の確認、授業で扱う ICT 端末の活用方法を検討した。 ※ ICT 端末をどの過程で取り入れるのかは、今後の一人一授業の実践を通して考えていくこととした。
9.30	2年算数 「形しらべ」	授角田教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・具体物を使った授業を行う際に、大型モニターを使って見せることで児童の意識を集中させることができ、ICT 活用が有効であることが確かめられた。
10.11	指指導主事訪問 B 指導案検討		○B 訪問指導案の検討 ・指導案全体についての確認を行うとともに、ICT 端末を扱う場面の精選を行った。
10.12	6年算数 「およその面積を比べよう」	授飯野教諭 (高学年部会) ※研究所授業	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・大型モニターの活用は、前時の学習を短時間で振り返ったり、本時の見通しをもたせたりする上で、有効であることが確かめられた。 ・ロイロノートを使った交流のさせ方において、課題が明らかになった。
10.26	1年算数 「形しらべ」	授関上教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・前時の学習の振り返りや、作図を見合うためにロイロノートの共有機能を使うことは、有効であることが確かめられた。
11.5	6年理科 「てこのはたらき」	授小幡教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・実験結果についてロイロノートを使って意見交流させることは考えや結果を比較・検討するうえで有効であることが確かめられた。
11.8	川田っこ2組 算数 2年「かけ算」 4年「四角形	授高橋教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・ミライシードを活用することで、複数の学年の児童と一緒に学習する場合でも、個に応じた学習を充実させることができると確認できた。

	の特徴を調べよう」		
11.15	5年算数 「比べ方を考えよう」	授 指導主事訪問 B 授 阿部教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 (成果) ・前時の振り返りや問題を把握する場面で、大型モニタを使うことで児童の意識を集中させることができた。 ・ペア学習を取り入れることで、普段発表をしない児童も発表する機会が得られ、自信をもたせることができた。 ・大型モニタでは、問題や児童の考えを表示し、黒板では、考えを整理したり児童の言葉を使ってまとめたりすることで、大型モニタと黒板の役割を明確にできた。 ・数直線、式、答えをロイロノートを使い、違った考えを比較させることで思考が深まった。 (課題) ・集団解決において、他者説明を取り入れると、児童の理解や考えを深めることにつながり、より思考力が深まるだろう。
11.29	川田っこ1組 算数 1年「ひき算」 2年「かけ算」	授 秋元教諭 (全体会)	○個に応じた学習の工夫 ・個別の学習状況に合った授業を行うことができた。 ・自作教材やノートの活用の工夫により、個々の学習状況に合った授業を進めることができた。
12.2	3年算数 「分数」	授 後藤教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・児童個々の考え方を色分けして、他の考え方やどの考えが多いのかを把握することは、より効果的な集団解決に繋がること確かめられた。
1.17	4年算数 「図形の面積」	授 白岩教諭 (全体会)	○児童の思考を深めるための ICT の活用 ・学習内容を定着させるために、振り返りの時間を十分に確保することは有効であることが確かめられた。
1.31	・まとめと来年度の研修について		
2.21	・標準学力調査の結果分析		来年度の研修に向けた検討

※児童にアンケートを行い、研修を通して ICT 端末の活用についての成果と課題を明確化した。

※毎週金曜日の放課後に ICT 機器の操作方法や活用方法を学び合う職員ミニ研修を行った。

〈職員ミニ研修の主な内容〉

chromebook の基本的な使い方	Googlemeet の接続の仕方
classroom の作成の仕方	Googlemeet を接続し実際に双方向での情報の伝達
ロイロノートの基本的な使い方	ドキュメント、スプレッドシートの使い方
ロイロノートを使った写真の撮り方、提出の仕方	スライドの使い方 ドキュメント、スライドなどの共有作成の仕方
ロイロノートを使い、提出したものの比較・検討の仕方	ロイロノートの実習 課題の配付から提出までを行い、比較・検討を行った。
ミライシードの使い方	chromebook のショートカット機能の紹介
classroom を使ったアンケート機能について	沼田市教育研究所の研究者からの情報の提供

〈職員一覧〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	内藤 麗子	教 諭	関上 さくら
教 頭	近藤 薫	〃	後藤 勇世
教 諭	小幡 操	養護教諭	小林 真奈美
〃	秋元 葉子	事務主事	山田 徳子
〃	高橋 富士夫	教育 DX 推進スタッフ	正田 由佳
〃	白岩 良子	学校教育支援員	小野 輝美
〃	角田 順子	小学校生活相談員	清水 幸子
〃	阿部 貞治	用 務 員	田口 政夫
〃	飯野 みさほ	運 転 手	本多 昌一

白 沢 小 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平94番地1

電話番号 0278-53-2151 FAX 53-3860

校長名 入澤 浩史

I 学校の経営

- 1 学校の教育目標
- よく勉強する子 《・自ら進んで勉強する子》
 - 思いやりのある子 《・他人の気持ちを考えて、助け合う子》
 - ねばり強い子 《・たくましく、心身ともに健康で、粘り強い子》

2 経営方針

(1) 経営理念 「チーム白小 気づき・考え・みんながのびる学校」

(2) 学校経営の目標

○子どもが楽しく学ぶ学校 ○子どもも職員も認め合う学校 ○家庭・地域から信頼される学校

(3) 学校経営の5本柱

- ① 教員の専門性を活かした「相互乗り入れ型教科担任制」、主体的・対話的で深い学びの授業
- ② 「命の大切さ」「自己肯定感・有用感」を持たせる活動の充実（道徳・人権・読書・いじめ防止活動）
- ③ 運動意欲の醸成、健康生活習慣づくり、「命と安全は自分で守る」危機管理意識を育てる
- ④ 「チーム白小」で全教職員が力を合わせ組織的に学校経営に参画し改善する
- ⑤ 家庭・地域・保小中で連携し、開かれた信頼される学校をつくる

3 本年度の重点施策

(1) 学力向上

- ・教員の専門性を生かした「相互乗り入れ型教科担任制」で質の高い授業を行う。
- ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、1人1台端末の活用等を取り入れながら、個別最適な基礎基本学習と交流や学び合いでの協働的な学びを行う。

(2) 豊かな心

- ・道徳推進教員を核とし「命を守り育む道徳」「考え議論する道徳」を充実させる。【道徳教育の充実】
- ・児童が「自己肯定感・有用感」を持ち、将来の夢と希望を思い描く機会を設定する。
- ・読書を奨励し、音楽など芸術と体験活動で豊かな情操を育む。【家族で本を読みましよう】
- ・白沢小の「生活ルール」「SNSルール」を遵守する心を育てる。 【沼田市SNSルール】

(3) 健康・安全

- ・「体力向上プラン」を基に体育的活動の改善を行い、運動への意欲・興味・関心を高める。
- ・家庭・小中で連携して引渡し訓練を行い、自分の命と安全は自分で守ろうとする意識を育てる。
- ・地域・保護者や「安全の家」等地域との連携を強め、児童の登下校の安全確保に努める。

(4) 組織運営

【命を守り育てる教育】

【セイフティ沼田】

- ・「学校目標－学年・学級目標－自己目標」という目標の連鎖を図り個と組織の方向性を合わせる。
- ・PDCA〈行事におけるDCAP〉サイクルで成果・課題・対応策を明確にし、常に課題を改善していく。
- ・教職員の資質の向上や指導法等の改善に向け、研究や研修の充実を図る。 【教職員の資質向上】

(5) 家庭・地域連携

- ・地域の教育力を活かし、児童の姿を伝えられるよう「学校・学級だより」「学校HP」を充実させる。
- ・白沢小中学校連貫教育協議会を核として小中連携を深める。 【幼小中連携】

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自ら考え、共に学び合い、いかす児童の育成

副主題 ～ICTを活用した個別最適な学びと協働的学びの一体化を目指す学習の工夫を通して～

児童の実態との関わり

- ・単元の学習計画の中に自分の考えをまとめたり意見交流したりする言語活動の場を意図的に設けるなど、学習過程を工夫したことにより、友達の話聞き自分の考えを伝える力がついてきた。
- ・学習内容の復習の時間がとれなかったために学習の定着力が下がっている。
- ・語彙力が低いために「的確な読み取りや表現や伝え方」に苦手意識がある。
- ・自分の考えと友達の考えを比較し、そこからよりよい考えにしていこうとする児童が少ない。

指導の在り方との関わり

- ・既習事項を活用し、各教科において、教科の特性や児童の発達段階に応じた単元及び単位時間の学習過程の充実を図る。
- ・問題解決的な学習過程のどこで、どのようにICTを活用していくかやどんな場面で活用すると効果的であるかを模索していく。
- ・児童がICTを活用しながら、個別最適な学びを実現することのできる「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を進め、児童の確かな学力を育成する。
- ・全学年で、学習の底上げを図る。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】自分の考えをもち、友達の考えを聞いて同じところに気づくことができる児童

【中学年】自分の考えをもち、友達の考えとくらべて自分の考えとの違いに気づくことができる児童

【高学年】自分の考えや根拠をもち、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりができる児童

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・児童が問題解決的な学習過程でICTを活用しながら、個別最適な学びや協働的な学びを実現できるように工夫した授業実践を行う。
- ・「白沢小学校における対話スキル向上のイメージ」をもとに、「深い学びに到達した姿」を定義づけ、共有する。単元ごとの「深い学びに到達した姿」を明確にもつ。
- ・はばプラⅡをもとに、単元計画の中に「話し合い活動」「体験的な活動」「ふり返し活動」などの「具体的な内容」を位置づけ、児童の変容をイメージした授業実践をする。
- ・昨年度は、学習内容の復習に十分な時間がとれなかったので、今年度は本時の復習時間となるような宿題の出し方を工夫する。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

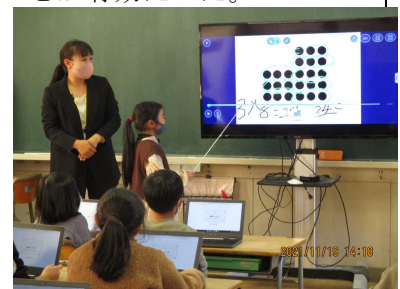
4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果 ・一人一台タブレット端末を活用し、自ら考える個別最適な学びができつつある。
- 課題 ・協働的な学びにするためのICT活用が不十分であった。
- 今後の取り組み ・今年度は本テーマが第一次で、今後協働的な学びにつなげていきたい。

3 研修計画・経過報告

指 … 指導案検討 授 … 研究授業・授業研究会
 成 … 成果 課 … 課題

月日	研修計画 [内容]	経過報告[○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4. 12	・今年度の研修について	○研修内容の共通理解○テーマ・サブテーマの決定
5. 10	・今年度の研修について	○目指す児童像の検討
5. 31	・目指す児童像の設定	○指導主事訪問について、指導案の様式及び質問事項等
6. 21	・研究授業実施について	○A訪問の準備
6. 23	・指導主事要請訪問A	○研究授業(一人一授業、B訪問)についての共通理解
7. 14	授 (部会)研究授業① 三浦教諭 (5年: 社会) ・指導主事要請訪問Aの報告	成・ロイロノートの活用 (交流と提出のさせ方) 課・タブレット操作の習熟を図るために効率的な学習の方法や機能を共通理解する。 ・指導案の書き方、個別最適な学び、協働的学びの捉え方
夏季休業	*自主研修	○授業実践に向けた指導案作成とその検討 ○B訪問に向けた研修
9. 13	B訪問指導案検討	○授業説明
9. 27	授 (部会)研究授業②	高橋栄一教諭 (自立)
10. 4	授 (部会)研究授業③ 星野教諭 (6年) 算数 「円の面積」	成・まとめ方をタブレット以外にもノートやプリント等を自分で選択できた。 課・Jamboardの活用について。
10. 11	授 (部会)研究授業④ 椎名教諭 (3年) 算数 「かけ算の筆」	成・ノートとタブレットを併用し、図と式を組み合わせで説明できていた。 課・教師用大型モニターに表示するときのタイムラグ対応。
10. 18	指指導案検討	○B訪問指導案検討
10. 20	授 (部会)研究授業⑤ 鯉淵教諭 (5年) 算数 「形も大きさも同じ図形を調べよう」	成・大画面や画面配信で共有し、練り合いで異なる考えを取り上げたことが、まとめにつながった。 課・共有の仕方が難しい。テキストの色分けでの対応。
10. 25	授 (部会)研究授業⑥ 七五三木教諭 (特支) 1年算数「3口の計算」	成・タブレットで問題を提示したり適用問題に取り組みせたりして実態に合わせ必要な場面で効果的に使えた。 課・教材や支援を精選していく。
11. 1	指指導案検討 (B訪問)	○B訪問指導案検討
11. 15	B訪問準備	○共通理解、役割分担、準備
11. 19	授指導主事要請訪問B 林教諭 (2年) 算数「かけ算(2)」	成・タブレットの操作、ロイロノートの使い方が身に付いていた。録音で自分の考えも残すことが有効だった。 ・振り返りを各自で録音する方法も工夫できる。全員が提出し共有することで意見の取りこぼしがなくなる。 課・必要なことは板書でまとめ、記述させるなど、ノート指導もこれまで通り大切に扱う。



12. 3	授 (部会)研究授業⑦ 青木教諭 (1年) 算数「どんな計算になるかな？」	成・数を数える時に書いたり消したりがすぐにできるので効果的。キーワードを掲示し何算か確認できた。 課・学年が低いほど、ロックをかけたり配信した画面を見せたりと工夫することが必要である。
12. 6	・B訪問の振り返り ・成果と課題	○協働的な学びの場面におけるタブレット端末の効果的な活用について ・低学年においてもタブレットを活用した様々な操作が可能であるため、録音などの機能を活用することも有効である。 ・ICT活用は手立てであるから、板書の活用やノートを使ったまとめ方も工夫していく。
12. 7	授 (部会)研究授業⑧ 内田教諭 (4年) 算数「四角形の特ちょうを調べよ」	成・四角形の特徴を捉えさせるためにシンキングツールを使ったことは効果的だった。 課・書き込みがロイロノートの利点なので、色分け等の工夫が必要。分からない児童へのヒントの出し方も工夫する。
12.16	授 (部会)研究授業⑨ 吉野教諭 (6年) 体育「表現活動」	成・動画の速度をいろいろ変えられたりダブル画面で見られたりしたことがよかった。2人で教え合う時に工夫していた 課・タブレットの音量が小さいので、小型スピーカーの接続ができると解消される。
1.31	・今年度の成果と課題	○来年度の研修主題や研修内容の検討
3.14	・次年度に向けて	〃



*資質向上研修

月日	区分	担当	内容
4.26	ICT機器研修	情報 (N T T 東日本)	○ICT機器研修…Chromebook
5.31	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 回目
	特支研修	特支担当	○ミニ特支研修
2学期	ICT機器研修	情報主任	○Chromebookcastの接続の仕方と活用
2.21	特支研修	特支担当	○ミニ特支研修
3.14	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 2回目

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	入澤浩史	教諭	内田明子	養護教諭	加藤俊子
教頭	井熊美保	教諭	鯉渕佑委	主幹事務長	原澤修
教諭	三浦武夫	教諭	星野美千枝	支援員	鈴木ゆかり
教諭	青木奈津江	教諭	吉野泰広	生活相談員	河野君代
教諭	林美鈴	教諭	高橋栄一	用務主事	小菅美津子
教諭	椎名美香	教諭	七五三木幸世		

利根小学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝93番地
電話番号 0278-25-8172 FAX 0278-56-2221
校長名 小野里 慶博

I 学校の経営

1 学校の教育目標

基本目標：確かな学力と、豊かな心をもち、ねばり強さと郷土を愛する精神に富む、心身ともに健全な児童を育成する。

具体目標：【知】進んで学習する子 【徳】思いやりのある子 【体】ねばり強くがんばる子

2 経営方針 「元気なあいさつ 明るい返事 活力あふれる利根小学校」

～気づき 考え 実行し 一人一人の輝く笑顔～

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力・問題解決力の育成
- (2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成
- (3) 健康・食育・安全の知識や技能の習得と実践力の育成
- (4) 家庭や地域社会と連携・協働した、安心・安全、保護者や地域から信頼される学校づくり

3 本年度の重点施策

(1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力・問題解決力の育成

- ① 学習ルールの徹底と教科の特性を踏まえた指導を通し、自主的・主体的な学習態度の育成
- ② 「めあて」「見通し」「振り返り」「ともに考え、深める場」の確保と確実な実行
- ③ 根拠を明確にした思考を通し、「ふしぎ・できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくり
- ④ 一人一台端末等のICTを効果的に活用した、分かる授業の展開

(2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成

- ① 人権尊重を核とした、異学年等との交流による、思いやりにあふれる人間関係づくり
- ② 「考え、議論する」道徳科への授業改善による道徳的判断力・心情・実践意欲の向上
- ③ 一人一人が活躍できる学校行事や学級活動の充実と個のよさを認め励まし、自己有用感を高める学校づくり

(3) 健康・食育・安全の知識や技能の習得と実践力の育成

- ① 家庭と連携した基本的な生活習慣づくりの推進と「利根小よい子の一日」、「利根小 SNS ルール」等を活用した規則正しく、規律正しい生活習慣の育成
- ② 生徒指導委員会を核とした児童理解と職員の共通理解、SCや外部関係機関との連携の推進
- ③ 健康に関する諸計画等についての共通理解と学校保健委員会の活用等による健康教育の推進

(4) 家庭や地域社会と連携・協働した、安心・安全、保護者や地域から信頼される学校づくり

- ① 学校安全計画や危機管理マニュアルを基にした安全指導による、児童の安全・安心の確保
- ② 保・小・中の連携による、小1プロブレム等の解消と各教科等の指導における連結の工夫
- ③ 地域の教育素材や地域の教育力を最大限に生かし、郷土のよさを語れる学校づくりを目指した、特色ある教育活動の推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自分の考えを根拠をもって表現できる児童の育成

副主題 ～各教科の見方・考え方を基に考える活動の工夫を通して～

児童の実態との関わり

自分の考えを具体的に説明したり、自分と他の考えの違いを捉え、自分の考えを適切に修正したりする力が弱い。また、考えの根拠を明確にして判断したり表現したりすることに課題がある。

指導の在り方との関わり

学校課題（根拠を明確にして、他者に分かるように表現すること）の解決に向け、各教科の見方・考え方を基にして、習得した知識・技能等を新たに学ぶものと関連付けて根拠を明確にして考える時間を意図的に設けたり、考えを全体で共有する際の発問を工夫して、個々の考えを練り上げ、思考を深めたりする授業を目指そうと本主題を設定した。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

- ・「根拠をもって表現できる児童」とは、既習の知識・技能を基にして見方や考え方を働かせ、問題の解決方法を教科の特質に応じた思考ツールや言葉等を用いて的確に説明できる児童と捉えた。
- 【低学年】教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて考え、自分なりに順序よく説明できる児童。
- 【中学年】教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて考え、理由を明確にして説明できる児童。
- 【高学年】教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて考え、比較して筋道立てて説明できる児童。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・各教科、単元や単位時間に用いる見方・考え方を明確にして単元構想・授業構想を練る。
- ・根拠を明確にして考える時間を意図的に設けたり、考えを全体で共有する際の発問を工夫したりして、個々の考えを練り上げ、思考を深める授業展開を工夫する。
- ・全職員がねらいに沿って研修を進められるように共通理解を図り、ICT 機器の効果的な活用や考えを視覚化するなどの活動を工夫して、研修の積み上げを図る。

3 研修計画・経過報告 〈次ページ〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・各教諭が、教科における「見方・考え方」を授業に落とし込み、それを働かせることを意識した授業改善に取り組めた。
- ・授業研究会における3つの視点「思考が深まる適切な教材提示とICT活用」「児童の思考の可視化と話し合いのさせ方」「考えを深め新たな気付きにつなげる発問」を意識することで授業改善が図られ、児童の説明する力が伸びてきた。

○課題

- ・各教科で幅広く取り組んだため、各教科の「見方・考え方」を教員間で共有するのが難しかった。
- ・見方・考え方に気付かせたり深めたりする意図的な発問、発表の場の時間の確保が必要である。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・「見方・考え方を働かせた説明力」が付くよう、主体的な交流のさせ方やICTの活用を工夫する。
- ・児童の多様な考えを想定し、習得すべき知識・技能へつなげられるよう発問を工夫していく。

3 研修計画・経過報告

授：研究授業

研：授業研究会

指：指導案検討

月日	内 容		○ 研修の視点 ・ 明らかになったこと
4. 19 4. 26 5. 24	研修計画の検討		○テーマ・サブテーマの決定、「目指す児童像」の検討 ○研修内容についての共通理解と一人1授業の計画 ○各教科における「見方・考え方」の基礎研究 ○「はばたく群馬の指導プランII」ICT活用Versionの活用
6. 28	授① 5年理科 「魚のた んじょ う」	6. 9 授 亀山教諭 6. 17 研 亀山教諭	○既習事項から共通性・多様性を見方を働かせ、根拠をもって予想したり考えたりさせる。 ・「つかむ」場面でICTを活用し、既習事項のインゲン豆やモンシロチョウの成長と比較・関連付けながら予想することができた。 ・児童が思考する場、発言の場を確保し板書等を工夫することで児童の思考が可視化され、さらに深い思考や発問につながられる。
	授② 3年道徳 「足りな い気持ち は何だろ う」	6. 21 授 丸山教諭 6. 22 研 丸山教諭	○問題意識をもち、自分との関わりで考えられるようにするため、役割演技やグループの話合いで考えを深める。 ・ICT活用で視覚的に場面を提示し、板書とリンクして考えさせ、グループで考えを話し合わせたことで多様な考えがもてた。 ・考える場面を焦点化し、揺さぶりの発問を意図的に入れることでさらに児童の思考を深める。
	教育課題に係る研修		○研修の方向性と喫緊の教育課題（熱中症・人権・ICT活用）
	指① 指導案検討		○B訪問へ向けての共通理解（授業構想、研修主題との関連）
10. 4	授③ 2年算数 「たし算 とひき算 のひっ 算」	9. 16 授 春原教諭 9. 16 研 春原教諭	○既習事項との違いを考え、数カードを使って自分の考えをもつ時間を設け、キーワードを用いて説明できるようにする。 ・キーワードが提示され、児童に意識付けられた。また、ロイロノートを活用したことで児童間の考えの共有がスムーズだった。 ・前時との違いを説明させたり、児童の説明のよかったところも発表させたりすることで、全体の思考を深める。
	授④ 5年算数 「図形の 角」	9. 22 授 浅香教諭 10. 4 研 浅香教諭	○既習事項を活用し、式と図を関連付け、筋道を立てて多角形の内角の和の求め方を説明できるようにする。 ・図と式を使って考えを書かせ、それを児童同士で見せ合いながら説明する場を設けられた。 ・式と図を関連付けて考えさせたり、文章化して説明させたりする等の時間を確保し、ロイロノートを活用して考えを共有する。
	指② 指導案検討		○B訪問へ向けての共通理解（指導計画・児童の実態・支援の工夫）
10. 25	授⑤ なかよし組 自立活動「絵を 見つけてお話を 作るう」「ピース で作ろう」	10. 22 授 小尾教諭 研 小尾教諭	○1年・3年・4年の児童一人一人の課題に応じた自立活動を設定し、見通しをもたせた支援を行う。 ・各児童の能力、学年差を補うための教材・教具が工夫され、めあてや見通しを児童が明確にして進めることができた。 ・児童の意識に沿って、児童が考えたり発言したりできる場を増やしていく。

	指③ 指導案検討	○B 訪問へ向けての共通理解（本時の展開・話し合いの場の工夫）
11.1	指④ 指導案検討	○B 訪問へ向けての共通理解（指導案の検討・研究協議の確認）
11.26 指導 主事 訪問 B	授⑧ 5・6年 体育 「マット 運動」 	授 石田教諭 浅香教諭 研 石田教諭 浅香教諭 ○技の局面ごとの動きに着目し、目標とする動きと取り組んだ動きを比較させることで、課題の解決策を言葉や動きで伝え合えるようにする。  ・技の「見る視点」が明確で、児童が話し合い際の根拠となっていた。動画を撮影し見比べたこと、場の設定が工夫されていたことで、児童が自分に適した練習を行え、新たな課題にも気付いていた。 ・技が高難度であり、全体での問い返しや意図的な動画を活用するなど全体で話し合う場を設定して考えを共有し、思考を深める。
12.13	授⑥ 6年音楽 「曲想の 変化を感じ 取り よう」	11.8 授 石原教諭 11.12 研 石原教諭 ○曲想に合った表現にするために「音楽を形づくっている要素」を根拠として考え、自分の演奏に生かせるようにする。 ・示範演奏や付箋紙に記入させて話し合い要素を考えさせたことが、強弱や速度などを児童が意識して演奏することにつながった。 ・実際に楽器で音を出す時間を確保し、話し合いをしながら演奏の工夫をさせていく。
	授⑦ 1年道徳 「にんじ んばたけ で」	11.16 授 土井教諭 11.16 研 土井教諭 ○役割演技を通して、自分の思いや感じ方を他者と交流させ言語化する。ロイロノートで考えを可視化、比較させ考えを深める。 ・役割演技後のワークシート記入が効果的だった。ロイロノートの活用が自己決定の場となり、自分の考えの変化にも気付けた。 ・児童の考えが発問の意図からそれたとき、どんな考えをもたせたいかを明確にして問い返し、一人一人の発言の場も確保する。
1.24 2.14 3.14	研修の成果とまとめ 次年度に向けて検討 学力検査結果考察	○研修の成果と課題、改善点について ○次年度に向けての方向性の検討 ○学力テストの結果について校内研修の視点で検討

※その他の研修 学校保健、安全、人権、ICT の研修を職員会議等で実施

<職員一覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	小野里 慶博	教 諭	亀山 秀治
教 頭	林 めぐみ	〃	小尾 浩三
教 諭	丸山 みのり	〃	春原 亜由美
〃	石原 博子	養護教諭	鈴木 梓
〃	土井 智穂	栄養教諭	根岸 仁美
〃	小林 円	主幹事務長	星野 郁史
〃	石田 真規	用務員	柳 恵美子
〃	浅香 みず穂		

多 那 小 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732
電話番号 0278-53-2919 FAX 53-3199
校長名 田部井 由美子

I 学校の経営

1 学校教育目標【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子

【具体目標】○よく学ぶ子(知) ○思いやりのある子(徳) ○たくましい子(体)

2 経営方針

(1) 経営目標 小・中全教職員の経営参画(チームたな)による組織の活性化を図る。

(2) 目指す学校像 ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校

(3) 目指す教師像 小・中学校の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心を持ち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成

【 】は沼田市独自施策との関係

①小中の学びの連続性を意識した学習指導の実施

②教員の専門性や特性をいかした教科担当制による学力向上、小中相互乗り入れ型教科指導の充実

③問題解決的な単元構想の工夫(学習の見通し・めあての提示と振り返り)【振り返り学習のすすめ】

④基礎・基本の定着(定期的な放課後学習、家庭と連携した家庭学習の習慣化と定着)

⑤校内研修の充実(小中完全融合型の組織活動)による教師の指導力の向上

⑥特別支援教育の充実(一人一人の実態やニーズに即した小中連携による指導・支援、職員研修)

(2) 豊かな心の育成

①考え議論する道徳での命の大切さの繰り返し指導【児童生徒の命を守り、育てる教育】

②全ての教育活動における自己肯定感・自己有用感を育てる意図的指導(褒め認める)

③人権教育・特別支援教育の充実による、児童生徒の心のバリアフリーの育成

④信頼関係を基盤にした生徒指導の推進と沼田市SNSルールの改善・充実【みんなで守り、みんなを守る「沼田市SNSルール」】

⑤家庭等と連携した読書活動の推進(親子読書の充実)【家族で本を読みましよう】

(3) 健康の保持増進と安全の確保

①児童生徒の健康と安全を第一に考えた、全教育課程における感染症予防対策の徹底

②各種緊急時避難訓練等の安全指導の推進【セイフティ沼田】

(4) 家庭・地域との連携・協働

①地域と連携、協働した取組による教育活動の充実【沼田(多那)大好き!ふるさと学習】

②学校支援センターの機能の充実

(5) 組織マネジメントの充実と職能の向上

①報告・連絡・相談+記録の徹底、全職員参画のPDCAによる学校課題の解決

②業務改善の推進(小中一貫の視点による分掌の工夫・改善、C4hの活用による会議等の時間短縮)

③服務規律確保に関わる組織や取組の見直し

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研 修 主 題 ～
「自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成」
— I C T を効果的に活用した授業づくり、体制づくり —

児童生徒の実態との関わり

- ・自分の考えをもてるが、多様な視点からのものの見方に気付くことは苦手とする児童生徒が多く、活発な意見交換には至っていない。
- ・互いの追究のよさや問題点に気づき、学びにつなげる意識をもてるようになってきているが、考えを広げたり深めたりする視点からの発言をできる児童生徒は少ない。

指導の在り方との関わり

- ・少人数での学習となるため、教師から多様な視点を示す必要がある。I C T を活用することで学び合いの時間を十分確保し、多様な視点を示した学び合いの充実を図る必要がある。
- ・児童生徒の主体的な活動や学び合いを促す視点からのI C Tの有効活用を図るためには、教師の組織的な指導とその蓄積が必要となる。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【低学年】I C T を使って、自分の考えを発表したり、友達や教師の考えを聞いたりすることができる。
- 【中学年】I C T を使って、自分の考えを発表したり、友達や教師の考えを聞いたりし、共通点や相違点に着目して分類したり、整理したりすることができる。
- 【高学年】I C T を使って、自分の考えを発表したり、友達や教師の考えを聞いたり、情報を調べたりして、多様な観点から考えを広げたり深めたりすることができる。
- 【中学生】I C T のよさを生かして、他者と協働しながら課題の解決や目標の達成に向かうことができる。

(2) 具体化した目指す児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・授業でI C T を活用し、意見交換をする場面を設定する。
- ・組織的な指導を蓄積するために、児童生徒の一人一端末でロイロノートやクラスルームなどを使用した授業実践を行う。

3 研修計画・経過報告 次ページ

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・I C T を活用し意見交流をすることによって、多様な観点から考えを広げられるようになってきた。
- ・動きや音声など消えてしまうものを記録し、客観的に意見交流するという活用や試行錯誤を要する場面での活用などI C T のよさを生かした活用法を蓄積することができた。

○課題

- ・意見交流させることはできたが、出された意見にさらに質問をしたり、考えを合わせたりして、新たな考えをつくったり、よりよい考えを出したりすることには課題が残った。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・I C T での意見交流と話し合い活動のそれぞれのよさを生かして学習活動を計画したり、教師が考えを深めるための発問を工夫したり、I C T 以外の板書やノートを併用したりして考えを深められるようにしていく。

3 研修計画・経過報告 (全:全体会 班:班別協議 校:校種別部会 指:指導案検討)

月日	研修内容	経過報告(○研修の視点・明らかになったこと)
4/14	全①・chromebook 研修① (外部講師)	○ chromebook の使い方 ・基本的な使用法、授業でできること
4/19	全②・研修内容について ・指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について ・目指すべき児童生徒の学びの姿の共通理解
5/17	全③・chromebook 研修②	○ロイロノートについて ・授業でのロイロノートの活用法
6/21	全④・授業実践について ・chromebook 研修③	○一人1授業実践について ・日程、班編成について ○授業での chromebook の活用について ・授業でのロイロノートやスライドの活用法
8/30	全⑤・授業実践について 班①・指①細谷、福島、山岸	○指導案検討会、授業実践、授業研究会の持ち方について ・ICTを活用した授業研究会の方法について ○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
9/6	授 業 実 践 I 中1美術科 福島 「漢字で感じて」	○アイデアの修正にICTを用いてアドバイスを出し合う活動 ・ロイロノートで良いところや改善案を生徒同士で短時間で送り合うことができ、記録が残るので今後の制作に活用できる。カードだけでは十分に伝わらないので話し合い活動も合わせて行っていくとよい。
9/6	中1社会科 細谷 「天平文化」	○生徒が一人ずつ資料を作成、発表する授業づくり ・生徒の作ったスライド資料で授業が進むのでやる気につながり、資料をすぐに見て共有できることもよい。深く考えるための質問を教師が用意しておく必要がある。
9/27	班② 指②阿部、佐藤、高山、渡貫	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
9/30	授 業 実 践 小5理科 阿部 「流れる水のはたらき」	○実験動画を用いての考察 ・教師が撮影した動画により視点を明確にして考察できた。児童の言葉でまとめると良い。ICTを使う場面と、ワークシートやノートに書く場面を使い分ける必要がある。
10/1	II 中1数学科 山岸 「比例と反比例」	○ICTを活用した課題の提示と考えの発表 ・ロイロノートをつかった課題の提示と学習プリントの併用は見通しを保たせる上で有効だった。数式等書き込むにはタッチペンが必要である。
10/11	小4算数科 渡貫 「計算のやくそくを調べよう」	○ICTを活用した課題の提示と考えの発表 ・ロイロノートでの課題提示やタッチペンで書き込むことが数を数えたり計算方法を考える上で有効であった。キャストと場面共有の使い分けを考える必要がある。
10/20	中1道徳 佐藤 「ロコ・ソラーレ メダルへの挑戦」	○考えを深める場面でのICTの活用 ・ロイロノートだと自分の考えを出しやすく、個々の意見の比較や検討もしやすい。付け足しやまとめについては板書の方がやりやすいので工夫が必要である。
10/20	中2英語科 高山 「Program5 Work Experience」	○ICTを活用した課題の提示 ・課題に関連した画像をICTで示したことは生徒の興味につながり、画像と結び付けて繰り返し言うことで学びを深めることができた。端末を活用して、画面を見ながら会話練習をしたが、消極的になってしまった。
10/25	班③ 指③星野、井上、大河原、小林	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
10/26	授 業 実 践 小3理科 小林 「物の重さをくらべよう」	○ICTを活用した課題提示と予想、結果、考察の発表 ・ロイロノートの共有機能を活用し、考えを比較し、差異点や共通点を見つける場面をもうけたことで、活発に意見交流をすることができた。ICT機器の不具合があっ

	Ⅲ		たので事前準備が必要である。
11/1	全校	⑥・B訪問について ①・B訪問指導案検討指	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
11/1	授業実践	小6 社会科 井上 「明治の国づくりを進めた人々」	○ICTを活用した課題の提示と考えの発表 ・ロイロノートを活用することで、資料比較、検討がしやすく、児童の言葉から学習問題を作るのに有効であった。画面を見て交流の場면을意図的に設定できると良い。
11/11	Ⅲ	小2 生活科 星野 「町たんけん2～グループで出かけよう」	○よりよい発表を考え、交流する活動 ・自分で撮影した写真を用いてロイロノートでまとめたものを友達に発表できていた。良い資料の条件を具体的に全体で共有できると良い。
11/12		小5 家庭科 大河原 「食べて元気！ご飯とみそ汁」	○ICTを活用し考え、交流する活動 ・3色分けシートを使ってみそ汁を考えることで、試行錯誤が容易で、字が見やすく交流しやすかった。アイデアを出したり、試行錯誤をしたりする場面では、書くよりも活動がしやすい。
11/15	校	②・B訪問指導案検討指	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
11/30	指導主事訪問B	小5 英語科 竹内 「What would you like?」	○やり取りの場面において動画を撮影して見直す活動 ・動画を見直すことで、客観的に自分のやり取りを振り返ることができ、改善点に気付けた。やり取りの組み合わせを工夫して練習時間を増やせば、さらに自信をもって発表できると思われる。
		中1 保健体育科 南雲 「マット運動」	○技の完成を高めるための動画撮影とアドバイス活動 ・自分達の演技動画をお手本動画と見比べることで、修正点がよく分かり、それを言語化して伝え合うことが思考・判断・表現の向上につながる。次時の内容を入れず、本時の内容にじっくり取り組んでも良い。
12/13	班	④ 指④金井、千明	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
12/17	授業実践IV	小1 学活 金井 「かぜにまけないからだ」	○ICTを活用し、画像を比較する活動 ・ブラックライトを使って洗い残しを見える化し、画像として記録することで、普段の手洗いと正しい手洗いを比較させることができた。画像の比較では、角度、明るさなどの条件をそろえて撮影することが重要である。
1/24	全	⑧・実践の振り返りとまとめ	○今年度の研究の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。
2/28	全	⑨・次年度構想の検討	○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
6/14	保健に関する研修	養護教諭	・事故やアレルギーなど緊急時の対応について
毎月	服務規律に関する研修	服務規律担当	・服務規律について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	田部井 由美子	教諭	竹内 康 祐
教頭	小林 菊 江	教諭	千 明 春 香
教諭	金 井 みち代	養護教諭	布 施 優 花
教諭	星 野 智 子	主幹事務長代理	星 野 恵 美
教諭	井 上 初 枝	非常勤講師	齋 藤 え り
教諭	渡 貫 文 子	教育DXスタッフ	佐 藤 美 香
教諭	小 林 昌 行	主任用務員	金 子 陽 子
教諭	大河原 真奈美		